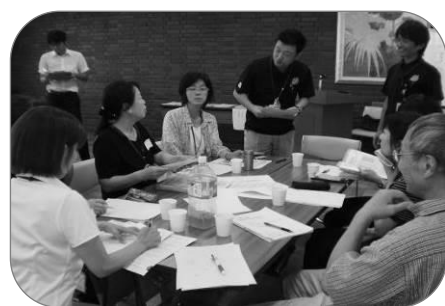


平成 26 年度
認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業
実施報告書



平成 27 年 3 月
日野市健康福祉部高齢福祉課

目 次

1. 事業の概要	1
(1) 事業の位置付け	3
(2) 事業の目的	4
(3) 事業の全体像	4
(4) これまでの事業展開	5
2. 実施体制と事業推進方策	7
(1) 事業推進体制	9
(2) 事業推進方策	10
1) 事業体系	10
2) 進捗管理手法	11
(3) 推進会議の開催	12
(4) 専門部会の開催	13
1) 専門部会の取組み	13
2) 専門部会の開催詳細	13
3. 専門部会による事業の推進	17
(1) 「認知症を知る月間」の開催	19
1) 事業概要	19
2) 事業実施結果	21
(2) 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備	23
1) 認知症家族介護者支援講座	24
2) 認知症家族介護者交流会	31
3) 認知症地域資源マップ（データベース）の活用	34
(3) 一般市民に対する認知症や虐待防止等の理解促進	36
1) 認知症啓発講座	37
2) 認知症サポーター養成講座	41
3) 虐待防止啓発	46
4) SOS ネットワークの充実	48
(4) 関係機関のネットワーク構築	49
1) 多職種連携研修	50
2) 虐待防止マニュアルを活用した対応スキルアップ	57
3) 認知症ケアパス作成に向けた社会資源の整理	57

4. 事業推進の成果と課題.....59

(1) 事業評価.....61

(2) 次年度の方向性.....63

【資料編】 67

(1) 日野市の虐待受付状況.....69

(2) 日野市の徘徊対応状況.....70

(3) 平成 26 年度までの取組み.....72

(4) 年間スケジュール.....75

(5) イベント等のちらし.....77

(6) 認知症サポーター養成講座 開催状況詳細.....81

1. 事業の概要

本市では、平成 18 年度より、認知症高齢者支援及び高齢者虐待防止対策について、東京都福祉保健区市町村包括補助事業の補助を受けて事業の展開を図ってきました。

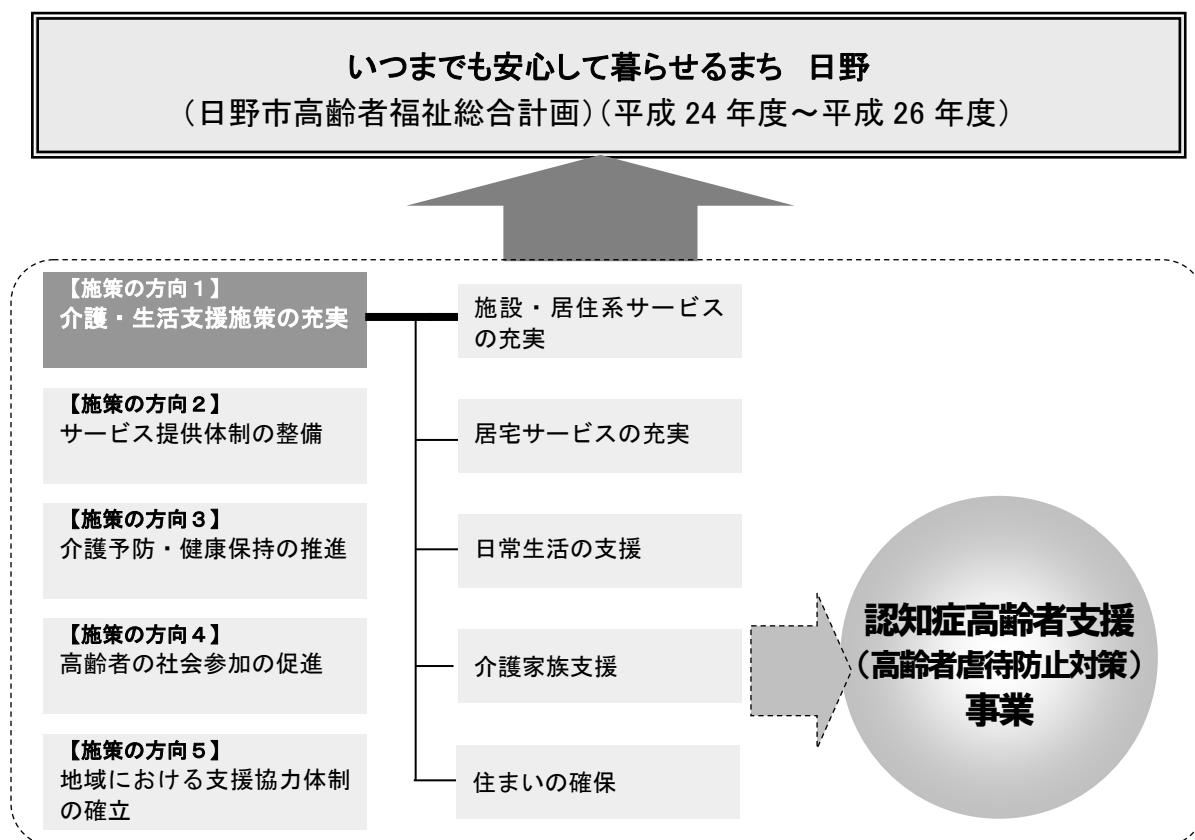
当初、認知症家族介護者交流会や認知症サポーター養成講座などから始まった本事業も、近年では、広く一般市民を対象とした認知症啓発講座や関係機関の連携強化、更には、認知症高齢者やその家族のための「地域資源情報」の作成検討など、幅広い事業展開をしています。

（１）事業の位置付け

平成 24 年 6 月、「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」において、介護保険サービス、介護予防及び生活支援の各施策を、医療及び住まいの施策との有機的な連携を図りつつ包括的に推進することが規定されました。

これを受け、日野市では、「日野市介護保険事業計画」および「シルバー日野人安心いきいきプラン」を統合するとともに、新たに「高齢者居住安定確保計画」を策定し、3つの計画を統合した、「日野市高齢者福祉総合計画（平成 24 年度～平成 26 年）」を策定しました。

本計画において「認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業」は、施策体系における「施策の方向 1：介護・生活支援施策の充実」の「介護家族支援」を実現する事業となっています。



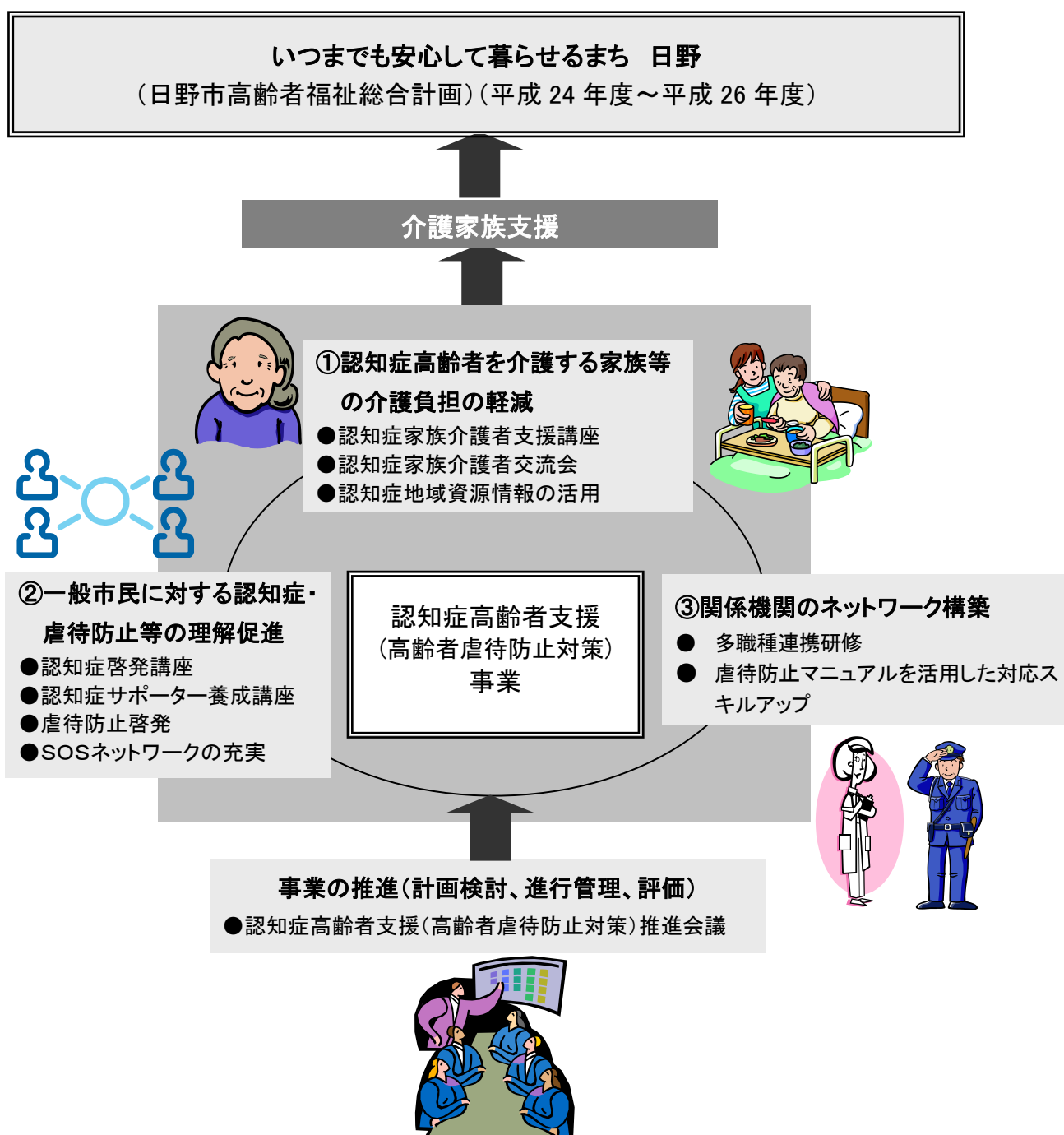
(2) 事業の目的

長寿化の影響により、認知症高齢者や、加齢による心身機能の衰弱により虐待などの権利侵害を受けやすい状況や環境で生活している高齢者が増加傾向にあり、今後更に増えることが予測されています。

本事業は、高齢者が認知症であっても尊厳を持って地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりを進めることを目的としています。

(3) 事業の全体像

本事業は、「介護家族支援」を実現する事業として、次の①～③の3つの柱で構成されています。地域包括支援センターとの連携のもと柱ごとに取り組みを展開します。



(4) これまでの事業展開

平成 18 年より、認知症高齢者支援と高齢者虐待防止対策を目的とした個別の事業として展開されてきましたが、平成 22 年より、認知症高齢者と高齢者虐待の相互関連性などを踏まえ、1つの事業として統合されました。

これまで、認知症高齢者支援事業については、11 の取組み、高齢者虐待防止対策事業については 8 つの取組みに順次着手し、現在に至っています。

	取組み	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
認知症 高齢者 支援	①認知症家族介護者交流会(専門相談会)		○	○	○	○	○	○	○	○
	②認知症サポーター養成講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	③認知症サポーターステップアップ講座			○						
	④高齢者SOSネットワーク構築に向けた取組み			○	○			○		○
	⑤認知症予防啓発パンフレット				○			○		○
	⑥認知症地域資源マップの作成					○	○	○	○	○
	⑦認知症家族介護者支援講座					○	○	○	○	○
	⑧認知症啓発講座					○	○	○	○	○
	⑨介護サービス従事者研修(※)					○	○	○	○	○
	⑩関係機関連絡会(※※)					○	○	○	○	
	⑪認知症高齢者支援・高齢者虐待防止推進会議					○	○	○	○	○
高齢者 虐待 防止 対策	① 高齢者虐待防止にかかわる検討・対策会議		○	○	○					
	②高齢者虐待防止勉強会		○							○
	③関係者研修		○	○	○					
	④ケアプラン指導研修・専門相談会		○	○						
	⑤虐待防止啓発講演会		○	○			○			
	⑥虐待防止啓発							○	○	○
	⑦高齢者虐待に関する啓発パンフレットの作成		○						○	
	⑧日野市高齢者虐待対応・防止マニュアルの作成等	○	○	○	○			○	○	○

※H26 より多職種連携研修に名称・役割とも変更。

詳細は、資料編「(3) 平成 26 年度までの取組み」を参照

2. 実施体制と事業推進方策

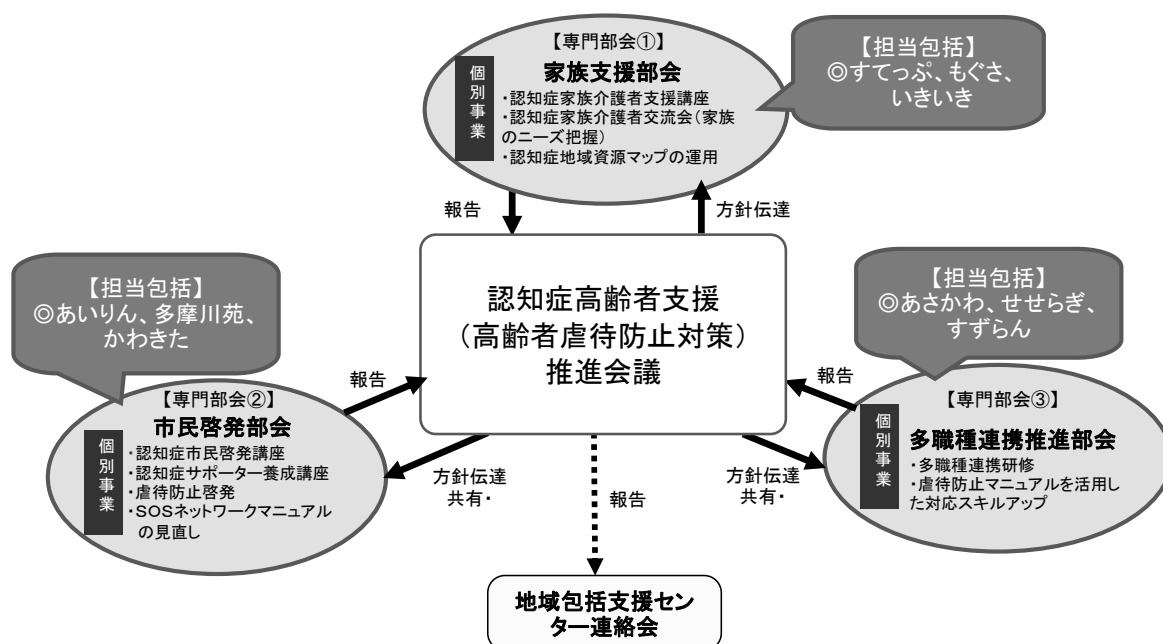
(1) 事業推進体制

本事業は、事業全体の運営方針の検討、進捗管理、評価の共有を行う推進会議、及び、推進会議で示された方針や目標を踏まえた事業の企画、運営、実施を行う専門部会の2部構成で進めています。

専門部会は、「認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備」、「一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進」、「関係機関のネットワーク構築」という3つの取組みの柱と
 共に、それぞれ「家族支援部会」、「市民啓発部会」、「多職種連携推進部会」を設置しました。
 平成 26 年度は、家族支援部会を「すてっぷ」、「もぐさ」、「いきいきタウン」、市民啓発部会を「あいりん」、「多摩川苑」、「かわきた」、多職種連携推進部会を「あさかわ」、「せせらぎ」、「すずらん」で担当しました。

■推進会議・専門部会の役割

- ①推進会議：運営方針の決定、進捗管理、評価を行う機能
- ②専門部会：推進会議で決定された取組み方針・目標を踏まえた各事業の企画、運営、実施



(2) 事業推進方策

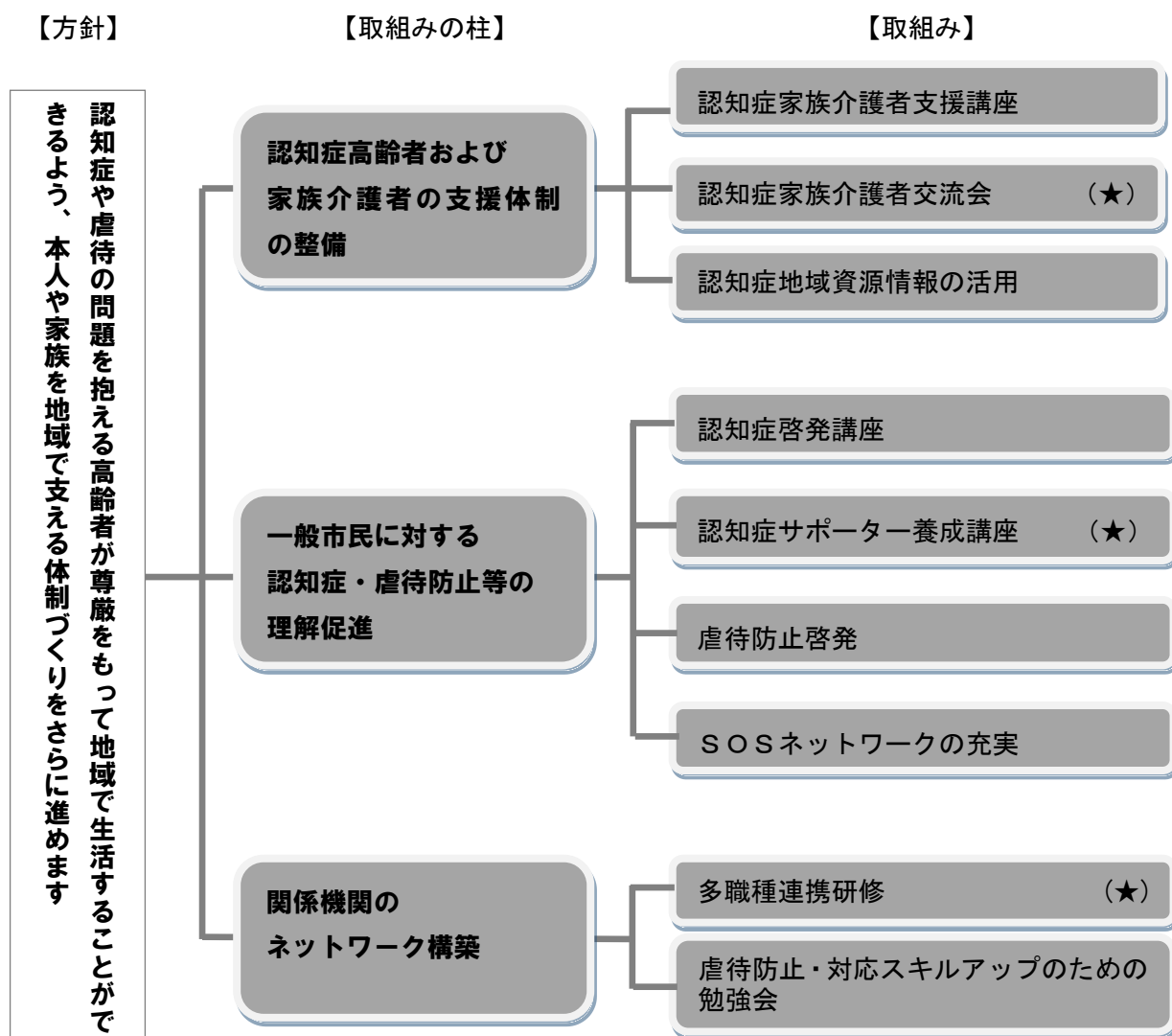
事業全体としての目的・方向性の確認や進捗管理の必要性が課題として認識されたことから、一昨年度より「高齢者福祉総合計画」における本事業の位置付けを確認し、これを踏まえた各取組みの体系化を行いました。平成 26 年度は、事業の目的をより具体化するため、「目指す姿（対象と意図）」および「評価視点」の設置により進捗管理を行うこととしました。

さらに前年度の事業展開から抽出された各取組みの「課題」への対応についても評価を行いました。

1) 事業体系

本事業は、3つの「取組みの柱」で構成されています。各柱に2～4つの取組みを配置するとともに、特にステップアップさせたい取組みを「ステップアップ取組み」に設定しました。

(★) ステップアップ取組み

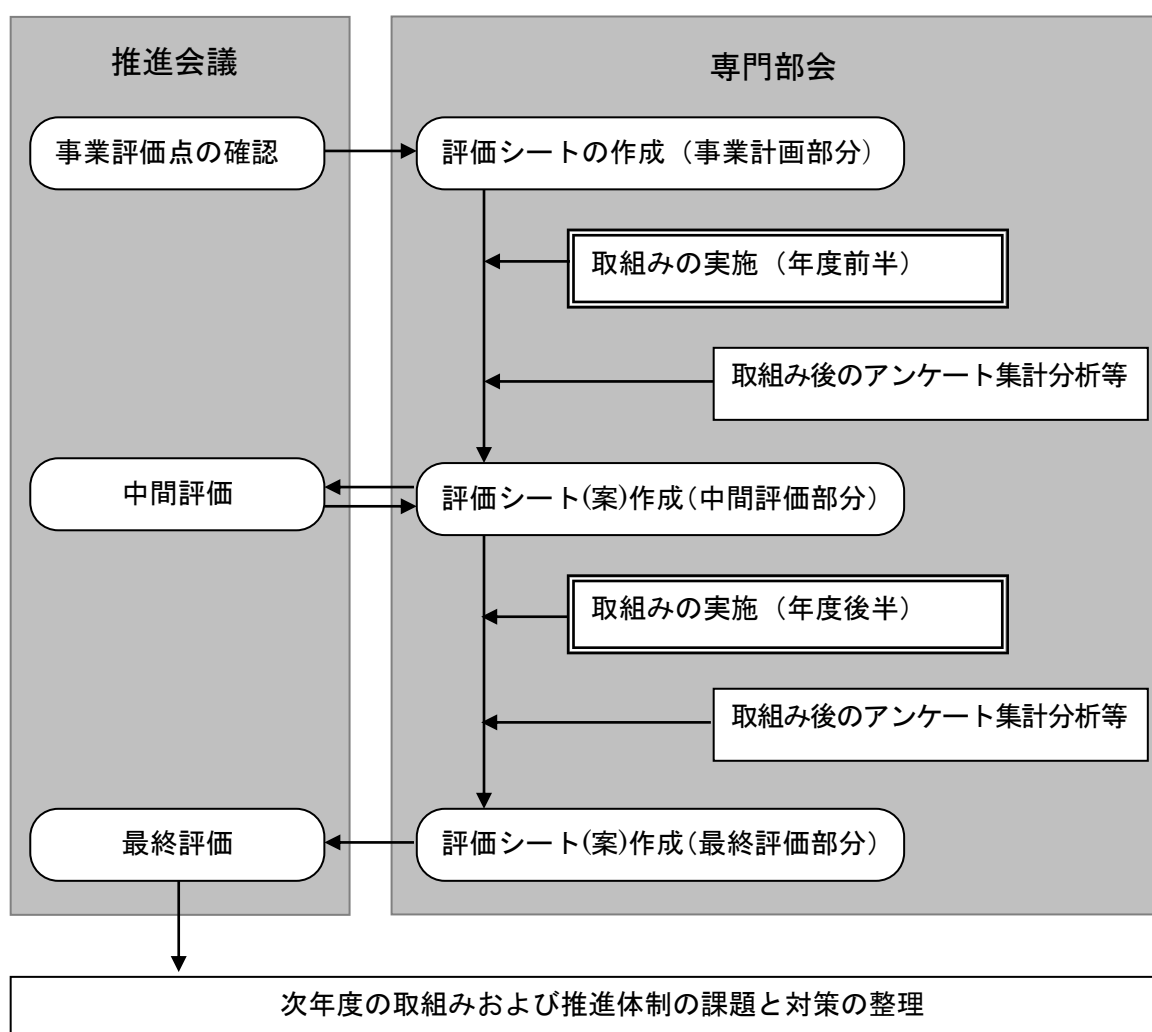


2) 進捗管理手法

平成 26 年度は、これまでの評価シートを簡略化するとともに、各取組みの「対象」と「意図」の見直し（『誰が』『どうなる状態』を目指すのか、という目的の明確化）を行い、各目的の達成度を測る数値目標を設定しました。

これら「対象」と「意図」及び数値目標の達成度合いなどをふまえ、中間評価（10 月）、最終評価（2 月）を行い、「十分な成果が得られた」場合は「A」、「おおむね成果が得られた」場合は「B」、「期待した成果が得られなかった」場合は「C」という評価軸で事業評価を行いました。また、各取組みの柱に設定された「ステップアップ取組み」については、個別評価とは別に評価を行いました。

◆ 取組み評価の流れ



(3) 推進会議の開催

平成 26 年度は、推進会議を3回開催しました。目的の達成状況を共有するため、評価シートを用いた報告・共有を行うとともに、情報交換が活発になされるよう、目的に応じてワークショップ形式を取り入れました。

	開催日時等	主な議題
第1回	平成 26 年 4 月 23 日 (水) 9:15~11:45 501 会議室	1. 平成 26 年度事業について 2. 事業の目指す姿と評価指標の検討 (※ワークショップ)
第2回	平成 26 年 10 月 23 日 (水) 9:30~11:30 501 会議室	1. 中間評価 2. 年度後半に向けた協議 ・「対象」と「意図」に立ち返って前半を振り返る
第3回	平成 27 年 2 月 27 日 (金) 14:00~16:00 501 会議室	1. 最終評価 2. 次年度の方向性

■推進会議の様子



(4) 専門部会の開催

事業の「取組みの柱」ごとに3つの専門部会を設置し、各部会で担当する取組みの「対象」と「意図」(＝目的)に沿った実施方針の決定および取組みの企画運営を行いました。

1) 専門部会の取組み

専門部会の開催実績は、家族支援部会 10 回、市民啓発部会 12 回、多職種連携推進部会 11 回となっています。

2) 専門部会の開催詳細

① 家族支援部会

担当地域包括支援センター	すてっぷ◎、いきいきタウン、もぐさ ※◎：部会長
取組みの柱	認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備
取組み	①認知症家族介護者支援講座 ②認知症家族介護者交流会 ③認知症地域資源情報の活用

【開催実績：計 10 回】

	開催日時等	主な議題
第1回	平成 26 年 5 月 21 日 (木) 10:00～12:00 市役所会議室	1. 事業評価シートの作成 2. 認知症啓発月間の内容検討 3. 講座モデル事業の検討
第2回	平成 26 年 6 月 17 日 (火) 14:00～15:50 市役所会議室	(市民啓発部会と合同部会) 1. 認知症を知る月間全体像の共有 2. 認知症を知る月間への意見出し・内容の精査
第3回	平成 26 年 7 月 3 日 (木) 14:30～17:00 市役所会議室	1. 認知症を知る月間の詳細決定 2. 講座モデル事業の検討 3. 日野市版パンフレット作成について
第4回	平成 26 年 7 月 10 日 (木) 14:30～16:30 市役所会議室	(市民啓発部会と合同部会) 1. 認知症を知る月間の詳細決定 2. モデル事業の提案内容の検討

	開催日時等	主な議題
第5回	平成26年8月22日(金) 14:00~16:30 市役所会議室	1. 認知症を知る月間の詳細決定 2. モデル事業の案確認 3. 日野市版パンフレットの内容確認 4. 認知症簡易チェックシステムの検討
第6回	平成26年10月2日(木) 9:30~11:30 市役所会議室	1. 認知症を知る月間の振り返り 2. モデル事業の内容の詳細決定
第7回	平成26年11月14日(金) 9:30~11:30 市役所会議室	1. モデル事業の開催スケジュールの決定
第8回	平成27年1月14日(木) 9:30~11:30 市役所会議室	1. モデル事業の詳細の決定 2. 地域資源情報の活用アンケートの実施方法の決定
第9回	平成27年2月4日(水) 15:00~16:00 市役所会議室	1. 評価シート最終評価の作成 2. バスツアーモデル事業アンケート結果確認
第10回	平成27年2月10日(火) 13:00~15:00 市役所会議室	1. 事業評価シートの修正 2. モデル事業の成果検証 3. 地域資源情報の活用方法の検討

② 市民啓発部会

担当地域包括支援センター	かわきた、あいりん◎、多摩川苑	※◎：部会長
取組みの柱	一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進	
取組み	①認知症市民啓発講座 ②認知症サポーター養成講座 ③虐待防止啓発 ④SOSネットワークの充実	

【開催実績：計12回】

	開催日時等	主な議題
第1回	平成26年5月19日(月) 15:00~17:15 市役所会議室	1. 評価シートの作成 2. 市民啓発講座の検討 3. サポーター養成講座の検討
第2回	平成26年6月17日(火) 14:00~15:50 市役所会議室	(家族支援部会と合同部会) 1. 認知症を知る月間全体像の共有 2. 認知症を知る月間への意見出し・内容の精査

	開催日時等	主な議題
第3回	平成 26 年 7 月 2 日（水） 14：00～16：30 市役所会議室	1. 市民啓発講座の内容決定 2. 認知症を知る月間にかかるPR、社協PRブースの詳細決定
第4回	平成 26 年 7 月 10 日（木） 14：30～16：30 市役所会議室	（家族支援部会と合同部会） 1. 開催概要及び企画の詳細について 2. モデル事業の提案内容の検討
第5回	平成 26 年 8 月 12 日（火） 14：00～16：30 市役所会議室	1. 事業評価シートの修正 2. 市民啓発講座の内容確認 3. パネル展示の企画検討 4. 市民活動フェアの出展準備
第6回	平成 26 年 10 月 2 日（木） 14：00～16：30 市役所会議室	1. 市民活動フェアの出展準備 2. 事業評価シート（中間評価）作成
第7回	平成 26 年 10 月 30 日（木） 14：00～16：30 市役所会議室	1. 市民活動フェア振り返り 2. 認知症サポーター養成講座標準教材の改訂検討
第8回	平成 26 年 11 月 26 日（水） 9：30～12：00 市役所会議室	1. 認知症サポーター養成講座の仕組み検討
第9回	平成 26 年 12 月 17 日（水） 9：30～12：00 市役所会議室	1. キャラバン・メイト連絡会の開催検討 2. 次年度にの参加するイベントの決定 3. SOS ネットワークCM 向け手引書の検討
第10回	平成 27 年 1 月 20 日（火） 9：30～12：00 市役所会議室	1. メイト連絡会の確認、決定 2. SOS ネットワークマニュアル改訂の検討
第11回	平成 27 年 2 月 6 日（火） 15：00～17：15 市役所会議室	1. メイト連絡会振り返り 2. 事業評価シート作成 3. SOS ネットワーク CM 向け手引き書検討 4. SOS ネットワークマニュアル改訂検討
第12回	平成 27 年 3 月 6 日（金） 15：30～17：30 市役所会議室	1. SOS ネットワーク CM 向け手引き書の検討 2. SOS ネットワークマニュアル改訂の検討 3. 認知症サポーター養成講座受講者へのアンケートの実施検討



家族支援部会の様子

③多職連携推進部会

担当地域包括支援センター	あさかわ◎、すすらん、せせらぎ	※◎：部会長
取組みの柱	関係機関のネットワーク構築	
取組み	①他職種連携研修 ②虐待防止・対応スキルアップのための勉強会	

【開催実績：計 11 回】

	開催日時等	主な議題
第1回	平成 26 年 5 月 15 日（木） 10：00～12：00 市役所会議室	1. 事業評価シートの作成 2. 事業全体の摺合せ
第2回	平成 26 年 5 月 27 日（火） 14：30～17：15 市役所会議室	1. 第1回多職種連携研修の開催検討
第3回	平成 26 年 6 月 26 日（木） 15：00～17：15 市役所会議室	1. 第1回多職種連携研修の開催概要決定
第4回	平成 26 年 7 月 22 日（火） 14：00～16：30 市役所会議室	1. 第1回多職種連携研修の詳細決定 2. 上半期の活動の振り返り
第5回	平成 26 年 10 月 3 日（金） 14：00～16：30 市役所会議室	1. 下半期の活動内容の決定
第6回	平成 26 年 10 月 31 日（金） 14：00～16：00 市役所会議室	1. 虐待マニュアル見直し検討 2. 第3回多職種連携研修開催検討
第7回	平成 26 年 11 月 20 日（木） 9：30～11：30 市役所会議室	1. 第3回多職種連携研修の詳細決定
第8回	平成 26 年 12 月 2 日（火） 15：00～17：00 市役所会議室	1. 第3回多職種連携研修の詳細決定
第9回	平成 26 年 12 月 19 日（金） 9：30～11：30 市役所会議室	1. 第3回多職種連携研修の詳細決定 2. 認知症ケアパス作成の検討
第10回	平成 27 年 2 月 2 日（月） 10：00～12：00 市役所会議室	1. 認知症ケアパス作成のための資源の洗い出し 2. 第3回多職種連携研修の振り返り
第11回	平成 27 年 2 月 20 日（金） 10：00～12：00 市役所会議室	1. 認知症ケアパス作成のための資源の洗い出し 2. 事業評価シートの作成

3. 専門部会による事業の推進

(1) 「認知症を知る月間」の開催

1) 事業概要

本事業では、これまで認知症家族介護者を対象とした「家族介護者支援講座」、一般市民を対象とした「市民啓発講座」、「サポーター養成講座」、「SOSネットワーク」、介護サービス従事者を対象とした「介護サービス従事者研修」など、対象別に様々な取組みを進めてきました。

これらの取組みは、毎年見直しや改善を図りながら成果を上げてきました。一方で、参加者の固定化や、各取組みがそこで完結し、別の取組みに波及する広がりを見せないなど波及効果不足等の課題が新たに増えてきました。

そこで、平成 26 年度は初の試みとして、多世代の市民への啓発効果、各取組み間の相乗効果を高めることを目的として、複数の取組みを集中的に実施する「認知症を知る月間」を開催しました。

【目的】

- ① これまでなかなか足を運んでももらえなかった一般市民（無関心層、若い年代）へのPR効果を高める。
- ② 各取組み間の波及・相乗効果を高める。

【開催概要】

開催日時	平成 26 年 9 月 1 日（月）～30 日（火）
開催場所	日野市内各所（市役所、七生公会堂、市民の森ふれあいホール）
主催	日野市高齢福祉課
協力機関	市内小規模多機能ホーム、市内グループホーム、市内認知症デイサービス事業所、ひのケアマネ協議会、日野市社会福祉協議会、特定非営利活動法人愛隣舎、公益財団法人精神・神経科学振興財団
後援機関	日野市医師会、日野市歯科医会
開催内容	1. イベント (1) 市民啓発講座（9 月 13 日（土）14:00-16:00） 於：七生公会堂 「私たちの認知症～認知症になっても自分らしく生きられる社会とは？～」 講師：グスタフ・ストランデル氏 株式会社舞浜倶楽部代表取締役 (2) 認知症サポーター養成講座（9 月 17 日（水）14:00-15:30） 於：日野市役所 505 会議室 (3) 認知症家族介護者支援講座（9 月 20 日（土）10:30-12:30） 於：ふれあいホール 「認知症の人の食べる力を引き出す支援」 講師：独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所社会科学系専門副部長 平野 浩彦先生 (4) 家族交流カフェ（9 月 20 日（土）12:30-14:30） 於：ふれあいホール (5) 認知症無料医療相談会（9 月 18 日（木）午後） 於：多摩平ふれあい館

2. 9月中のイベント以外の対応

(1) 図書館における「認知症を知る月間」コーナーの設置

①9 月中、中央図書館、高幡図書館、平山図書館の3館において関連書籍紹介コーナーを設置。

(2) 市役所1階におけるパネル展示：9月2日（火）～9月26日（金）

3. 各取組み間のつなぎについて

※1つの講座等のイベントへの参加にとどまらず、関連した別の取組みへの参加や、ボランティア活動などの次のアクションにつなげるよう企画する。

(1) 啓発講座→認知症サポーター養成講座、SOSネットワーク日野市メール配信サービス利用登録

(2) 認知症サポーター養成講座→SOSネットワーク日野市メール配信サービス利用登録、介護ボランティア登録

(3) 医療相談会→家族支援講座、家族交流カフェ

(4) 支援講座、家族交流カフェ→家族交流会

4. PR 方法

- 若い世代へのPRを行う。
- 統一感のあるオレンジで目立たせる。
- 無関心層にまで行き届くよう広くPR。

(1) 図書館展示コーナー

①オレンジ飾り、ポスター、ちらし

(2) 市役所・支所における【月間】対応

①職員のリング着用、オレンジ飾り、のぼり旗、ミニ旗

*オレンジ飾り、ミニ旗はあいりん、就労デイ、GH、認知症デイ、小規模多機能ホームに作成依頼する。

②8 月中に市職員にサポーター養成講座を実施し、新入職員もリングを着用できるようにする。

(3) 地域包括支援センターにおける【月間】対応

①月間ポスター、のぼり旗、ミニ旗、オレンジ飾り

②スタッフはオレンジリングをつける。

(4) 事業所・社協における【月間】対応

①月間ポスター掲示 ②利用者家族へのPR

③スタッフはオレンジリングをつける。

(5) ちらしの配布

①自治会回覧 ②社協 ちらし1,000部を会報で配布

③社協 イベント8月映画上映会でちらしを配布

(6) プレスリリース

(7) 広報ひの9月1日特集号

(8) 駅でのPR

(9) 平山サロン等大学のボランティア部に個別にPR

2) 事業実施結果

今回の目的である、一般市民（無関心層、若い年代）へのPRという点では、はじめて本イベントに参加した割合が約6割、若い参加者（29歳以下～40歳代）の参加者が約25%と、一定の成果があったと言えます。また、もう1つの目的である、各取り組み間の波及効果を高める（1つの講座等のイベントへの参加にとどまらず、関連した別の取り組みへの参加や、ボランティア活動などの次のアクションにつなげる）という点については、ボランティア活動に関する相談が12名、介護サポーターの登録にいった方が2名あり、こちらも開催の成果があったと言えます。

一方、事前の周知不足という課題が残りました。

【各講座等の参加者へのアンケート結果等】

目的		成果指標	25	50	75	100 (%)
1)	一般市民(無関心層、若い世代を含む)への事業PRの強化	①はじめて認知症高齢者支援事業に参加した割合	61.5%			
		②若い世代(29歳以下～40歳代)の参加者の割合	24.3%			
2)	各取り組み間の波及・相乗効果の向上	①ボランティア活動に関する相談件数	12名			
		②介護サポーター等登録者数	2名			
3)	「認知症を知る月間」の評価	①「良かった」「まあ良かった」と回答した割合	79.8%			

【関係者へのアンケート結果】

良かった点	① 広く効率的・効果的に認知症啓発・事業のPR広報ができた ・認知症のイベントが1ヶ月の中に集約されていることで、かなり効率よく認知症啓発のアピールができた ・集中して市民に周知する手法は効果的である ② 各事業の相乗効果もあった ・複数の行事に参加している一般・家族の方の姿があった ③ 市役所においては「やっている感」が出ていた ・のぼりやパネル展示などで、市役所では「やっている感」がでていた ④旗やのぼり、ポスター、広報ひのとの連動等、広報PRが良かった ⑤グループホーム等協働による開催が良かった ・他の部会、グループホーム等の多職種と連携してイベントを作り上げることができた
改善点・今後の方向性	①バランスをとりながら、来年以降も継続開催したい ・地域包括支援センターのその他の業務とのバランスを図りながら負担感がないよう来年も開催できると良い ・「認知症を知る月間」が広く市内に周知されるまでコツコツと実績を積み上げていくと良い ・来年以降も継続していくことで、日野市の認知症月間がより一層充実したものにしたい

- ・2週連続の開催は参加者にとっても厳しいのでは

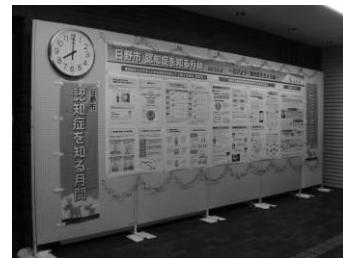
②広く市民を集客する更なる工夫が必要

- ・企画の特色がはっきりと分かれていたほうが参加を検討しやすいのでは
- ・若年層啓発のため土曜日に開催したが、年配の参加者と比較し若い方の参加が少なかった
- ・周知不足。介護事業所の方さえ、認知症を知る月間を知らない方がいた

(※各イベントの詳細については、各取り組みのページを参照)

PRの工夫

「認知症を知る月間」のPRのため、のぼりを市役所周辺や地域包括支援センターに設置しました。地域密着型施設が紙と割り箸で作成したミニ旗を市役所窓口等に飾りました。また、啓発パネルを市役所の1Fに展示しました。



認知症無料医療相談会

公益財団法人精神・神経科学振興財団の協力を得て、3名の医師による認知症やパーキンソン症状のある方の医療相談会を実施しました。



図書館での認知症コーナー

中央図書館、高幡図書館、平山図書館の3館のイベントスペースにおいて、認知症関連書籍をまとめてご紹介し、大変好評でした。



(2) 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備

【担当：家族支援部会】

事業体系の「取組みの柱」、「1. 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備」については、下表の通り「取組みの柱」および「認知症家族介護者支援講座」、「認知症家族介護者交流会」、「認知症地域資源情報の活用」の3つの「取組み」ごとに「対象」と「意図」および成果指標を設定しました。1年間の取組みの総合評価は「B」（おおむね成果が得られた）という結果でした。

方 針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりをさらに進めます
取組みの柱	1 認知症高齢者および家族介護者の支援体制の整備

1 取組みのねらい

(1) 取組みの柱の「対象」と「意図」		
主な対象	(具体的な対象)	意図（対象がどのような状態になっているか）
家族	・配偶者 ・兄弟、姉妹 ・子ども（同居・別居） ・義理の息子、娘 ・孫 ・その他	自分だけではないという安心感を持って、地域の中で受け入れられながら本人や家族が生活している



(2) 取組みの「対象」と「意図」		
取組み（取組みの柱の意図を実現するための手段）	対象	意図
1) 認知症家族介護者支援講座	家族	認知症に関する専門的知識や介護技術が身についている
2) 認知症家族介護者交流会	家族	いつでも愚痴をこぼせる機会やリフレッシュの機会がある
3) 認知症地域資源情報の検討	家族	地域や専門機関の情報が包括から手に入る

2 成果指標

(1) 成果指標の推移と達成状況							
取組み	成果指標		単位	前年度実績	実績値		達成度
				H25	H26中間	H26最終	
1)	① アンケートによる満足度		%	89.8	90.7	90.7	85 ◎
2)	② 新規参加者の人数（全体）		人	—	7	10	8 ◎
	③ 次年度企画に向けてニーズ把握（希望の聞き取りの回数）		回	—	—	1	1 ○
3)	④ 各包括での利用回数（全体）		回	—	—	4	9 △
参考	認知症家族交流カフェの参加人数		人	—	14	14	—

◎：目標値を達成する見込み /○：目標値達成には至らないが前年度より向上する見込み

△：目標値達成にはいたらず、前年度と同様または悪化する見込み /—：指標の数値を把握できない

3 取組みの柱の点検【最終評価】

記入年月日 H27年 2月 5日

(1) 取組みの成果（「取組みの柱の意図」に対してどのような成果があったか、箇条書きで簡潔に記入）	
・「家族介護者支援講座」は「認知症と歯科口腔」という時流に合ったテーマ設定で、家族の関心も高く、満足度・理解度ともに高評価であった。 ・「家族介護者交流会」の新規参加者は増えたが、本事業で取組んでいる各種イベントでの周知を受けての参加が多かったとは言えない。 ・「家族介護者交流会」の自主企画モデル事業（バスツアー）では、家族の要望をもとに企画運営を行い、参加者の満足度も高く、息抜き・リフレッシュの場となった。 ・「地域資源情報」に関してはまだまだ活用されておらず、家族支援に十分に生かされていない。	
(2) 次年度に向けた課題（現状の懸案事項や新たに对应すべき課題等を箇条書きで簡潔に記入）	
・「家族介護者支援講座」は、企画内容は良かったが、より多くのご家族に参加頂けるよう「認知症を知る月間」以外の時期に開催することも要検討。 ・「各圏域の家族介護者交流会」に関して、より多くの方（新規）に参加していただけるよう広報の方法を工夫・検討する必要がある。 ・「家族介護者交流会」は立案、家族参画などの、認知症の方や家族の方の視点を重視した取組検討。「家族意向の把握」の方法等について要検討。	
(3) 取組みの柱についての総合評価	
B	A：達成した。十分な成果が得られた。
	B：おおむね達成した。おおむね成果が得られた。
	C：目標達成までには至らなかった。期待した成果が得られなかった。

本事業の取組みがきちんと「家族のニーズ」に込れているのか、という課題意識があったことから、「認知症家族介護者交流会」を「ステップアップ取組み」に設定し、交流会参加者等を対象として「家族のニーズ把握」を行うこととしました。

具体的には、たかはた圏域をモデル圏域に設定し、家族のご意見を伺いながらイベント（バスツアー）の企画を行いました。イベント自体の満足度は高く、家族ニーズを踏まえた企画ができましたが、市内全体のご家族の意向把握までは至らなかったため、「B」（おおむね成果が得られた）という評価でした。

2) 認知症家族介護者交流会		◎ステップアップ取組み	
対象	家族	意図	いつでも愚痴をこぼせる機会やリフレッシュの機会がある
ステップアップの目標		1. 家族ニーズの把握⇒支援講座、拡大交流会への展開	
取組み内容		・今年度当初にモデル圏域を選定 ・モデル圏域にて年度内に特別企画の予定を告知・協力依頼 ・モデル圏域にて企画内容を複数提示し、その中から選んでもらう ・モデル圏域にて特別企画（マッサージ&バスツアー食事会）実施	
成果		・モデル圏域に指定されたことに当初戸惑いは見られたが、複数の企画案の中から自分たちの希望が通ったということでの満足感あり。ただし、その企画を自分たちの手で進めていくというところまではいかなかった。 ・予定通り圏域内で無事に開催することができ、内容については意図通りで満足度の高いアンケート結果が得られた。	
評価		B	
課題・解決策		・通常の交流会に参加されている家族のニーズの声に合わせた内容で実施することができたが、それは認知症家族介護者のごく一部であり、必ずしも全体のニーズをとらえているとは言えない。 ・参加人数が定員21名に対して10名と少なく集客が思うように伸びず、最終的には他圏域にも一部声掛けを行うこととなった。 ・アンケート結果により、自主的に立ち上げたいという方もいたので、次年度以降全圏域で、アンケートを実施し、結果によっては、自主的な立ち上げについて検討が必要。	

A: 達成した。／ B: おおむね達成した。／ C: 目標達成までにいたらなかった。期待した成果が得られ

1) 認知症家族介護者支援講座

①第1回認知症家族介護者支援講座

平成26年度の第1回認知症家族支援講座（以下、「支援講座」）は、「認知症を知る月間」の取組みの一環として「認知症カフェ」と同日開催し、認知症の人を介護しているご家族が支援講座で介護の知識や技術を習得した後、「認知症カフェ」にてリフレッシュいただけるよう企画しました。

支援講座では、認知症高齢者を含む要支援・要介護高齢者の歯科口腔ケアがますます重要になるなか、ご家族に「認知症の人の食べる力を引き出すアプローチ方法および口腔ケアの重要性」について理解して頂くことを目標とし、独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所社会科学系専門副部長の平野浩彦先生をお迎えしてお話いただきました。

平野先生には、（1）認知症のタイプとタイプ別症状、（2）認知症の「食」に関する問題（①摂食開始困難、②摂食中断、③食べ方の乱れ）、（3）口腔ケアの重要性、というテーマで、画像や動画を用いるなど大変わかりやすくお話いただきました。質疑応答

も大変活発に行われ、参加者の満足度も高く好企画でした。

一方、参加者が定員の約半数という状況であるとともに、「認知症カフェ」にはご家族の数も多くなく、集客が課題として残りました。

■開催概要

開催日時	平成 26 年 9 月 20 (土) 10:30~12:30 (開場: 10:00)
開催場所	市民の森 ふれあいホール 2 階 コミュニティルーム 1
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	小林雅尚氏 (地域包括支援センターもぐさ)
定員 (参加者数)	90 名 (47 人)
プログラム (計 120 分)	1. 開会 挨拶 高齢福祉課長 (5 分) 2. 講演 (85 分) 「認知症の人の食べる力を引き出す支援」 講師: 平野浩彦先生 (独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所社会科学系専門副部長) 【講演内容】 (1) 認知症のタイプとタイプ別症状 (2) 認知症の「食」に関する問題 1) 摂食開始困難 2) 摂食中断 3) 食べ方の乱れ (3) 口腔ケアの重要性 3. 市の取り組み紹介・PR (10 分) ※地域包括支援センターいきいきタウン中山氏 ① 地域包括支援センター ② 高齢者見守りネットワーク ③ SOS ネットワーク ④ 家族介護者交流会 4. 質疑応答 (15 分) 5. 閉会 ~家族交流カフェへ誘導~
配布資料	① 次第 ② 講師プロフィール ③ アンケート用紙 ④ 地域包括支援センターパンフレット、見守り支援 NW ちらし、SOSNW ちらし、知って安心認知症、虐待防止啓発ちらし
設置資料	事業所ちらし: 小規模、GH、認知症デイ

■講座の様子



左上: 平野先生
右上: 動画を使った講演の様子



左下: 参加者の様子
右下: 参加者の様子

【認知症カフェ】

認知症家族介護者同士の交流やリフレッシュの機会の提供を目的とした「認知症カフェ」を開催しました。

開催にあたっては、市内の認知症の人を介護しているご家族が支援講座で介護の知識を習得した後、「認知症カフェ」にてリフレッシュしていただけるよう企画しました。

市内小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）、認知症対応型通所介護事業所、ひのケアマネ協議会との協働で企画・運営を進めました。カフェの目的である「交流の場」をより充実させるため、家族介護者に向けた事業所のPRや、利用者によってつくられたクッキーやドリンクバーの設置を行いました。

会場は、家族介護者、グループホーム等の利用者と職員、スタッフで一杯となり、大変熱気にあふれたものとなりました。とくに利用者の方々がいきいきと楽しそうにお話される光景が見られ、利用者を中心とした「認知症カフェ」の開催の意義や効果、手ごたえをつかめた会となりました。

■開催概要（認知症カフェ）

開催日時	平成 26 年 9 月 20（土）12：30～14：00（開場：12：00）
開催場所	市民の森 ふれあいホール 2階 集会室2-1
実施主体	日野市高齢福祉課
定員（参加者数）	なし（14 人（家族介護者））
プログラム （計 120 分）	1. 開会（5 分）12：30～ ・途中事業所の紹介 2. 閉会 14：30
配布資料	① 家族介護者交流会のちらし ② アンケート用紙

■「オレンジ・カフェ」の様子



左：利用者が作ったクッキー
右：ドリンクバー



左：事業所の紹介
右：参加者同士でおしゃべり

②第2回認知症家族介護者支援講座（モデル事業）

「家族介護者」の支援に求められているニーズを把握し取組みに生かしていくため、たかはた圏域をモデル圏域に設定し、家族介護者交流会に出席している家族と一緒にイベントを企画する取組みを行いました

講座等知識の習得を目的としたものと、バスツアー等リフレッシュを目的としたものが案として上がりましたが、家族の希望により、普段の介護の疲れをとりリフレッシュするためのマッサージ講習およびホテルバイキング、お庭散策を行うことになりました。

参加者は10名と、20名の定員には達せず、PRが課題として残りましたが、アンケート結果による参加者の満足度は大変高く、ニーズに応えた結果となりました。

■開催概要

開催日時	平成27年2月4日（水）10：00～14：30
開催場所	フォレスト・イン昭和館
実施主体	日野市高齢福祉課
定員（参加者数）	20名（対象者；認知症の家族を介護している方）（10名）
会費	3,080円（昼食代）（60歳以上の方はシニア料金：2,750円）
プログラム	集合 七生福祉センター（七生公会堂） マッサージ講習会 あんまマッサージ指圧師：小林雅尚氏 （地域包括支援センターもぐさ職員） 出発 フォレスト・イン昭和館へ ～バスで移動～ ホテルバイキング ホテル内、お庭等散策 出発 七生福祉センターへ ～バスで移動～ 解散



■交流会の様子



ホテルバイキングでのおしゃべり



マッサージ講習会

認知症家族介護者支援講座 アンケート結果

【アンケート回収状況】

①第1回：認知症家族介護者支援講座「認知症の人の食べる力を引き出す支援」

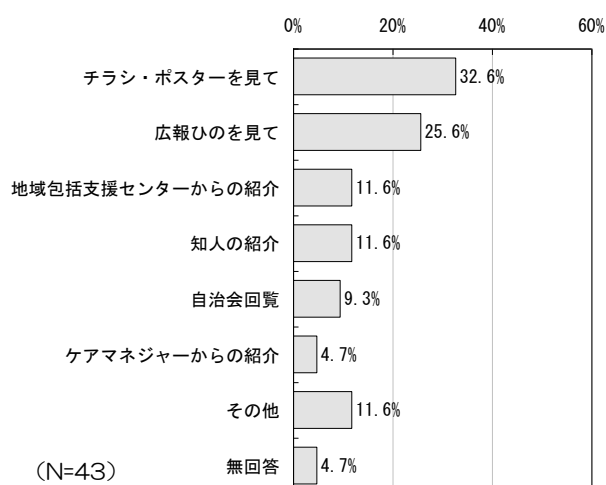
参加者数：47人 回収数:43枚 （回収率：91.5%）

②第2回：認知症家族介護者交流会特別企画「癒しのマッサージ講習&お食事会」

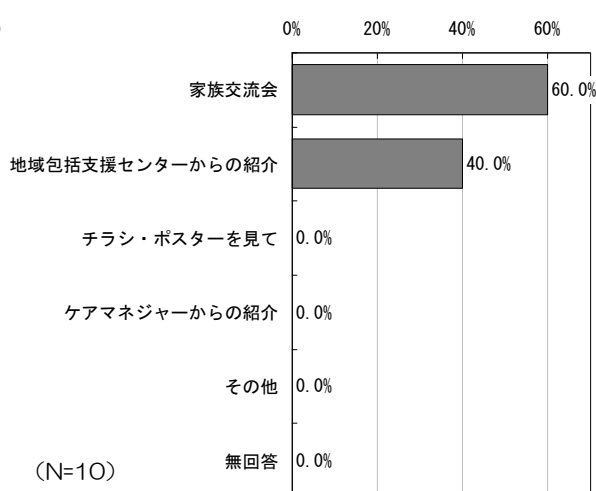
参加者数：10人 回収数:10枚 （回収率：100.0%）

1. 講座を知った経緯

【第1回講座】

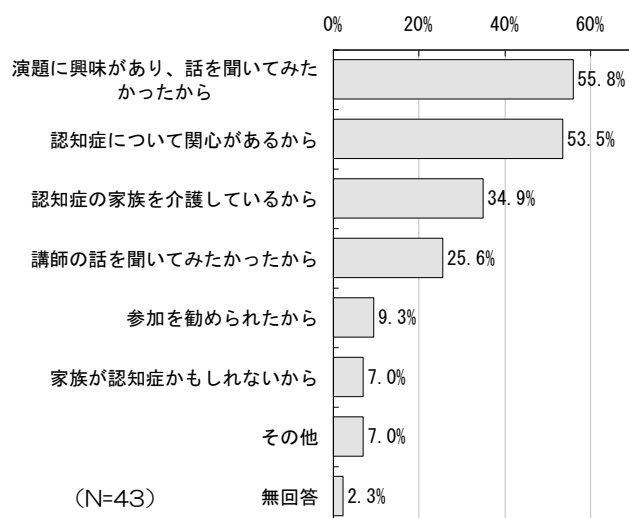


【第2回講座】



2. 参加について

【第1回講座】：参加動機



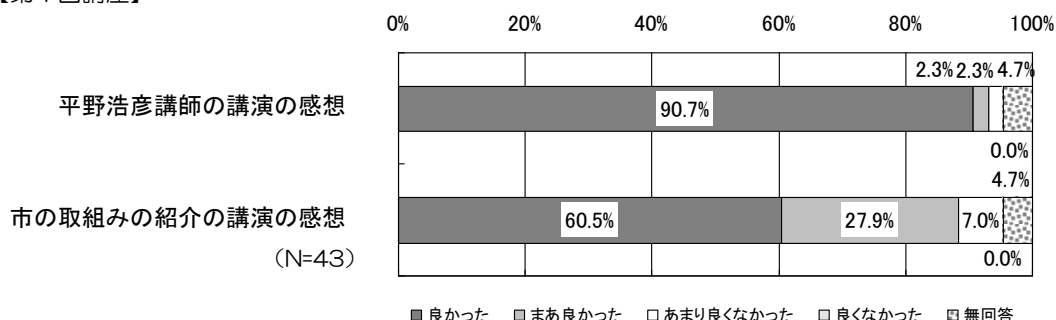
【第2回講座】：新規の方の参加を増やすにはどのようにしたらよいか

自由記入

- ・顔見知りの方がお誘いするのが一番いい。
- ・一人ずつでも増やしていくこと。
- ・常に声掛けしていけばいいのでは。

3. 感想

【第1回講座】



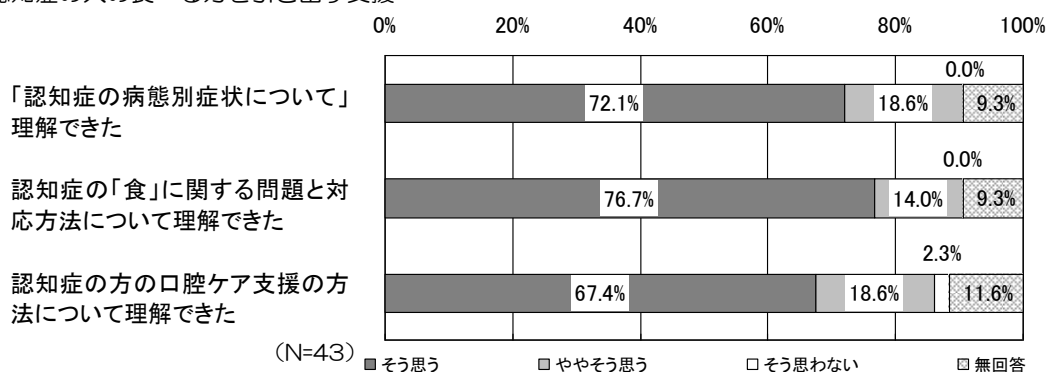
【第2回講座】

自由記入(主なご意見)

- ・想像以上にとても良かった。
- ・司会の方がはっきりしていてよかった。
- ・マッサージが大変参考になった。
- ・マッサージのリラックス方法参考になった。
- ・身体がリラックスできてよかった。
- ・普段話せないことが話せて、話ができて本当によかった。
- ・話に合点することが多く、良かった。
- ・食事中色々話ができて良かった。
- ・食事でも食べ過ぎなくらい食べたが、いい場所だった。
- ・お食事会もなかなか行けない所でよかった。

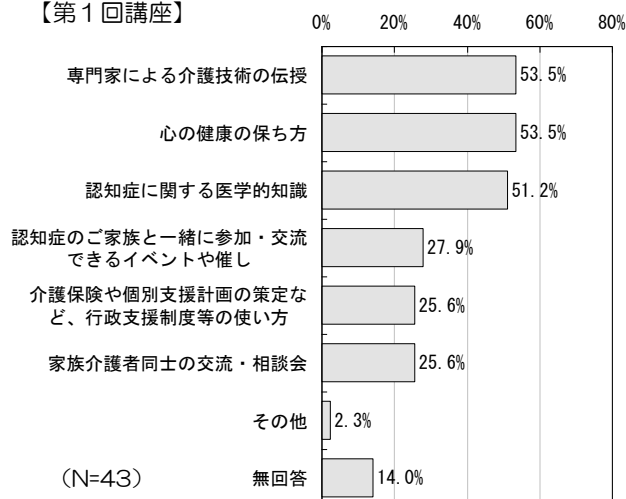
4. 講座で感じたこと

第1回：認知症の人の食べる力を引き出す支援



5. 今後どのような内容の講座を希望するか

【第1回講座】



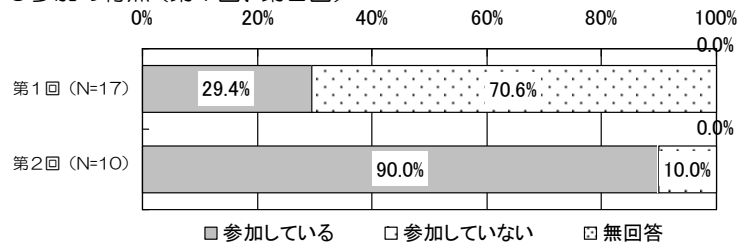
【第2回講座】

自由記入

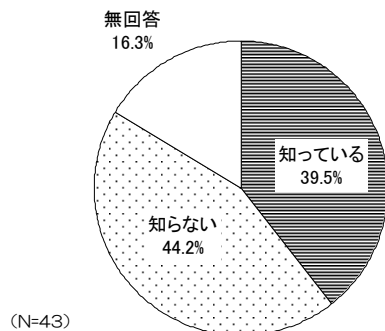
- ・今回のような企画を数回続けてほしい (2名)
- ・介護の講習会
- ・月1回ペースでお願いしたい
- ・バスハイク(野山など散策、高尾山など)
- ・楽しい企画をお願いしたい
- ・相続の話
- ・認知症カフェに行きたい
- ・介護を受けていない一人生活の高齢者と交流したい

6. 家族交流会への参加について

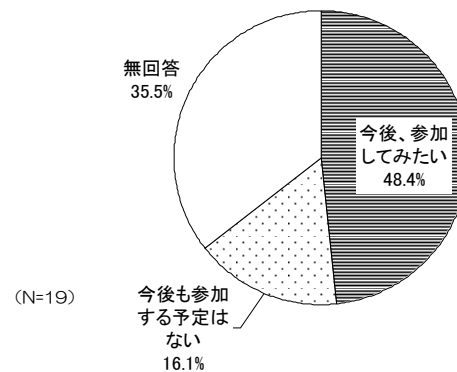
●参加の有無（第1回、第2回）



【第1回講座】 ●家族交流会の認知度

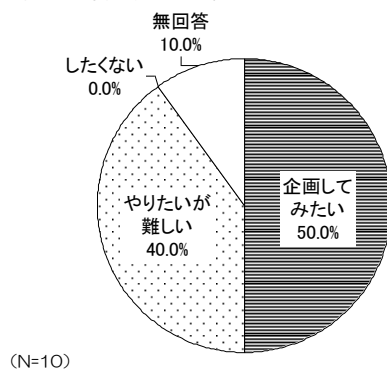


●今後の参加意向

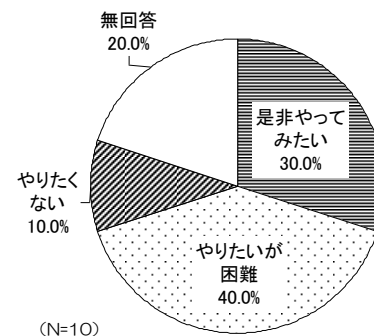


【第2回講座】

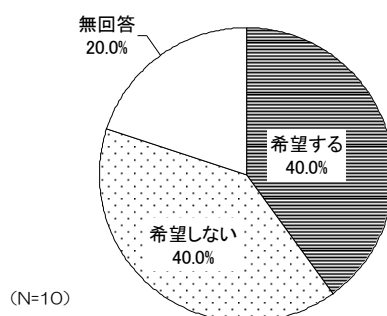
●家族介護者同士で今回のような企画への希望



●今後、交流会の立ち上げへの希望



●認知症のご本人の参加希望



●参加希望について

希望する意見

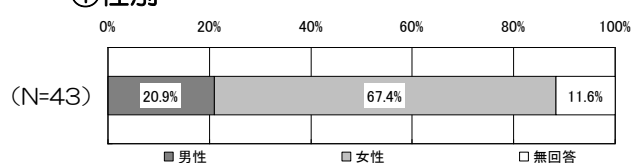
- ・車椅子があれば、外出のきっかけになり、本人も気分転換できるのでは。
- ・人と接する機会を増やしてあげたい。本人にもプラスになるのでは。

希望しない意見

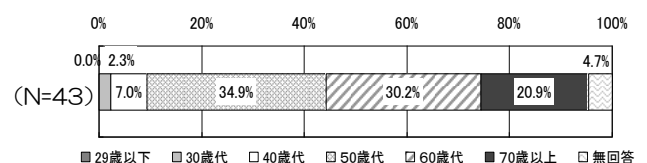
- ・かえって疲れる。

7. 属性（第1回）

①性別



②年代



2) 認知症家族介護者交流会

平成 19 年度より、介護者の精神的なケアの充実を目的に、日野市内の 4 つの生活圏域ごとに、認知症高齢者等の家族介護者が集まり会話や情報交換を行う「認知症家族介護者交流会」（以下、交流会）を実施しています。平成 26 年度は、たかはた圏域全 5 回、とよだ圏域全 6 回、ひの圏域全 6 回、ひらやま圏域全 4 回実施しました。

現在、交流会は各圏域の地域包括支援センターが企画運営を担っていますが、モデル事業でのアンケート結果から、今後家族介護者が自ら交流会を開催していく自主化の希望者もあることから、次年度以降、状況に応じて交流会の自主企画の支援も進めいくことが必要です。

■交流会の様子



左右とも：交流会の様子
(たかはた圏域)

■認知症家族介護者交流会 実施記録

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	6月11日(水)	10:00~ 11:30	日野市立 福祉支援 センター	12名	家族：10名 民生委員：2名	講演会の案内、モデル事業の説明、内容検討、懇談会
2	9月3日(水)	10:00~ 11:30	日野市立 福祉支援 センター	15名	家族：11名 (新1名) 民生委員：1名 オブザーバー：3名	モデル事業案の案内、希望聞き取り、懇談会
3	12月3日(水)	10:00~ 11:30	七生福祉 センター	8名	家族：8名 (新0名) 民生委員：0名 オブザーバー：0名	モデル事業決定の案内、申込説明、懇談会
4	2月4日(水)	10:00~ 14:30	七生福祉 センター、 フォレス	10名	家族：10名 民生委員：0名 オブザーバー：	モデル事業(バスツアー、マッサージ&ホテルバイ

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
			トイン、 昭和館		0名	キング)
5	3月4日(水)	10:00～ 11:30	日野市立 福祉支援 センター	8名	家族:6名 (新2名) 民生委員:2名 オブザーバー: 0名	26年度振り返 り、新年度への要 望、懇談会

【とよだ圏域】(6回)

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	4月10日(木)	14:30～ 16:00	愛隣舎 ホール	5名	家族:4名 オブザーバー: 1名	近況報告、現在抱 えている問題、相 談等
2	6月12日(木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	4名	家族:3名 オブザーバー: 1名	近況報告、現在抱 えている問題、相 談等
3	8月14日(木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	4名	家族:3名 (新1名) 民生委員:0名 オブザーバー: 1名	近況報告、現在抱 えている問題、相 談等
4	10月9日(木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	6名	家族:4名 (新2名) オブザーバー: 2名	近況報告、現在抱 えている問題、相 談等
5	12月11日(木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	8名	家族:6名 (新2名) 民生委員:0名 オブザーバー: 2名	近況報告、現在抱 えている問題、相 談等、モデル事業 案内
6	2月12日(木)	14:15～ 16:00	愛隣舎 ホール	5名	家族:4名 (新0名) 民生委員:0名 オブザーバー: 1名	近況報告、認知症 周辺症状への対 応について、口腔 ケアの重要性、現 在抱えている問 題、相談等

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	4月17日(木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	9名	家族：8名 オブザーバー： 1名	茶話会、意見交換
2	6月19日(木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	8名	家族：8名 オブザーバー： 0名	茶話会、意見交換
3	8月21日(木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	6名	家族：5名 (新2名) オブザーバー： 1名	茶話会、意見交換
4	10月16日(木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	6名	家族：6名 (新1名) オブザーバー： 0名	茶話会、意見交 換、ストレス解消 法
5	12月18日(木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	6名	家族：6名 民生委員：名 オブザーバー： 名	茶話会、意見交換
6	2月19日(木)	10:00～ 12:00	サルビア 会議室	6名	家族：6名 民生委員：名 オブザーバー： 0名	茶話会、意見交換

【 ひらやま圏域 】(4回)

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
1	5月21日(水)	10:00～ 11:30	南平西交 流センタ ー	11名	家族：11名 (新2名)	薬剤師による薬 に関する講演、質 疑応答、情報交換
2	7月16日(水)	10:00～ 11:30	南平西交 流センタ ー	12名	家族：11名 (新2名) オブザーバー： 1名	家族意見、情報交 換
3	11月19日(水)	10:00～ 11:30	南平西交 流センタ ー	6名	家族：5名 民生委員：1名	家族意見、情報交 換、見守りネット ワーク・緊急一時 保護事業の案内

	開催日	時 間	場 所	参加人数	参加人数(内訳)	内 容
4	2月18日(水)	10:00～ 11:30	南平西交 流センタ	9名	家族：8名 (新2名) 民生委員：1名 オブザーバー： 0名	家族意見、情報交換、「成年後見と権利擁護」講座の情報提供

3) 認知症地域資源情報(データベース)の活用

日野市における認知症地域資源情報を効果的に市民に提供することを目的として、平成 22 年度より認知症地域資源マップ作成の検討を進めています。検討の結果、平成 23 年度には、地域包括支援センターおよび市の認知症高齢者支援事業を紹介する「認知症サポートガイド」としてまとめました。平成 24 年度には、更に一歩進め、地域包括支援センターや高齢福祉課が市内のより詳細な地域資源情報の把握・提供ができるようになることを目指し、東京都の「認知症の人と家族を支える地域づくりの手引書」を参考にしながら、具体的な「地域資源」の情報収集を開始しました。

当初は、広く高齢者全般の支援に関わる「地域資源」を収集し、全 326 件がリストアップされましたが、類似の情報をまとめた冊子や地図があることから、「認知症」に特化した内容で整理すべきとの方向が確認され、認知症に特化した内容で精査・ルール化を行ったところ、141 件に集約されました。

平成 26 年度は、平成 25 年度にとりまとめた地域資源情報データベース(紙ベースで地域資源ごとにファイリングしたもの(P.35 参照)を実際に認知症相談において活用し、課題を抽出することとしました。

結果として、9のうち、実際に認知症相談において活用した実績は4件のみと大変活用度が低い状況でしたが、活用しなかったからは「改善し使いやすくすることにより、今後役に立つのでは」という意見があったため、推進会議にて改善策について検討したところ、①目的の明確化、②客観的な情報の掲載、③利便性の向上、の3点が挙げられました。

次年度は、認知症ケアパスの作成も予定されていることから、両者の目的・棲み分けを明確にした検討を進めることが必要であることが確認されました。

■推進会議で確認された改善点

1. 目的を明確に

- ・情報が網羅的であるため、使いにくい。介護・医療情報は既存の冊子にまとめられているため、商店情報など「まちガイド」としてはどうか

2. 客観的な情報の掲載

- ・資源活用の理由付けとなる情報があると良い(「バリアフリー」である、など)主観的な情報、例：「認知症の方に優しい」、では何がどうやさしいのか不明

3. 利便性の向上

- ①インデックスの詳細化：「美容院」などで引けるよう、現状よりインデックスを細かくしてはどうか
- ②資源を地図に落とす：場所が一目でわかるよう、地図に落としては

■日野市認知症高齢者 地域資源情報 データベース紙面

= 認知症地域資源に特化するために設定した項目

名称	
種別	認知症高齢者支援に役立つところ
住 所	
地区名	電 話
協力事業者	サ養成講座受講
診療科目	
営業(診察)日・時間	
休業・休診日	
往診・在宅・訪問	
備 考	
事例・マル秘情報等	

コピー厳禁

(2) 一般市民に対する認知症や虐待防止等の理解促進

【担当：市民啓発部会】

事業体系の「取組みの柱」、「2. 一般市民に対する認知症や虐待防止等の理解促進」については、下表の通り「取組みの柱」および「認知症啓発講座」、「認知症サポーター養成講座」、「虐待防止啓発」、「SOSネットワークの充実」の4つの「取組み」ごとに「対象」と「意図」および成果指標を設定し、1年間の取組みの総合評価は「A」（十分な成果が得られた）という結果でした。

方 針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりをさらに進めます
取組みの柱	2 一般市民に対する認知症・虐待防止等の理解促進

担当部会	市民啓発部会	記入者	鳥飼 梓
------	--------	-----	------

1 取組みのねらい

(1) 取組みの柱の「対象」と「意図」		
主な対象	(具体的な対象)	意図 (対象がどのような状態になっているか)
市民	・ 日中野市に在住する市民 (学生、在勤者含む) ・ 若い世代 ・ 認知症の方の近隣の住民 ・ 子育てを終えた主婦 ・ 普段認知症に全く関係ない人 ・ 認知症の方の世話をしている人	認知症に対する理解を深め、みなで協力しながら安心して生活している

(2) 取組みの「対象」と「意図」		
取組み (取組みの柱の意図を実現するための手段)	対象	意図
1) 認知症啓発講座	市民	認知症についての正しい知識を得て、理解を深めている
2) 認知症サポーター養成講座	市民	みなで支えあう意識がある
3) 虐待防止啓発	市民	虐待をしていない・させていない
4) SOSネットワークの充実	市民	SOSの仕組みを知り、協力している

2 成果指標

(1) 成果指標の推移と達成状況							
取組み	成果指標	単位	実績値			目標値	達成度
			前年度実績 H25	H26中間	H26最終		
1)	① 講座参加者数	人	167	115	115	300	△
	② 講座で意図した内容を理解した割合	%	97	85.6	85.6	100	△
2)	③ 講座参加者機関数	数	27	11	30	30	◎
	④ キャラバンメイト向け勉強会で意図した内容を理解した割合	%	—	—	100	100	◎
3)	⑤ 虐待の発生・通報件数・通報窓口を知っているかアンケートを実施	%	—	—	—	100	△
4)	⑥ SOSネットワークメール配信者数	人	5,853	6,353	6,780	6,000	◎
	⑦ SOSネットワーク登録者数	人	195	216	229	250	○

3 取組みの柱の点検【最終評価】

記入年月日 H27年 2月 # 日

(1) 取組みの成果 (「取組みの柱の意図」に対してどのような成果があったか、箇条書きで簡潔に記入)	
●「認知症月間」において、各機関（グループホーム、社会福祉協議会、小規模多機能等、図書館など）様々な主体との連携ができたことで、広報PRや情報発信が広がりを見せ、市民の認知症に対する理解を効果的に深めることができたと考えられる。 ●はじめての公募型サポーター養成講座も盛況であり、メイト連絡会開催による地域の人材育成の第1歩も踏み出せ、みなで支えあう意識を高める取組みが進んでいる。 ●単体では難しい虐待啓発やSOSネットワークの取組みを「知って安心認知症」のちらしに盛り込んだり、「認知症サポーター養成講座」のPPTに盛り込むことによって恒常的に啓発できる仕組みを作った。	
(2) 次年度に向けた課題（現状の懸案事項や新たに対応すべき課題等を箇条書きで簡潔に記入）	
●効果的にサポーターを増やすための仕組み作り ●認知症に対する社会資源となる人材の育成	
(3) 取組みの柱についての総合評価	
A	A : 達成した。十分な成果が得られた。
	B : おおむね達成した。おおむね成果が得られた。
	C : 目標達成までには至らなかった。期待した成果が得られなかった。

「ステップアップ取り組み」は「認知症サポーター養成講座」に設定し、毎年養成している認知症サポーターをさらに増やすための仕組み、認知症サポーターとなった方が学んだことを地域で実践できるよう育成するための仕組み（「ステップアップ講座」の実施）を検討しました。また、そういった仕組みづくりを検討するため、キャラバンメイト（認知症サポーター養成講座の講師役）連絡会を開催し意見交換を行いました。こうした新たな取り組みの第1歩が踏み出せたということで、「A」（十分な成果が得られた）という評価でした。

2) サポーター養成講座 ◎ステップアップ取り組み	
対象	市民啓発部会 意図 認知症に対する理解を深め、みなで協力しながら安心して生活している
ステップアップの目標	アンケート実施等によるフォローアップニーズや参加者の把握、名簿作成など、今後の展開検討のためのデータ収集
取り組み内容	●メイト連絡会で提案 ●メイト連絡会を開催し、認知症サポーター養成講座の推進のための第1歩を踏み出せた。他包括が参考になるような4つの好事例の事例発表を行ったほか、ステップアップ講座への取組について検討できた（ステップアップ講座は次年度月間で開催予定となる）
成果	
評価	A～Cで評価 A
課題・解決策	定期開催、メイト連絡会でどこまで決定するか ⇒次年度も計画的に実施するよう取り組む、推進会議・包括連絡会等へ相談・報告しながら、推進する

A: 達成した。／ B: おおむね達成した。／ C: 目標達成までにいたらなかった。期待した成果が得られなかった。

1) 認知症啓発講座

本市においても、高齢化の進展に伴い認知症高齢者の増えているなか、「住み慣れた地域で生活したい」と考える高齢者が増加しており¹、「認知症になっても自分らしく生きられる社会」の形成が求められています。また、昨年度の市民啓発講座で実施したアンケートでは、今後期待するテーマとして約半数が「認知症になっても安心して暮らせる地域づくりについて」と回答していました。

このような背景から、平成 26 年度の「市民啓発講座」は、福祉先進国スウェーデンの出身で、現在は浦安市に自ら立ち上げた介護付有料老人ホーム「株式会社舞浜倶楽部」の代表取締役として活躍されているグスタフ・ストランデル氏をお招きし、「私達の認知症～認知症になっても自分らしく生きられる社会とは？～」と題して開催しました。講座は、「認知症になっても自分らしく生きられる社会とは」、「私達にできる認知症を支える地域づくり」を構成の柱とし、福祉政策の国際比較や認知症支援の歴史の紹介に始まり、認知症高齢者施設やスウェーデンで利用されている4輪歩行車、音楽療法士ブンネ氏が開発したブンネ法など、自立を支援するハード・ソフトの取り組みの紹介などがありました。

¹ 第2期日野市高齢者福祉総合計画策定のためのアンケート調査

講座の後半では、日野市の認知症高齢者支援事業に対する周知啓発のため、地域包括支援センターより日野市の取組みの紹介を行いました。また、市民の地域づくりへの参画を促すため、講演終了後には、日野市社会福祉協議会による介護サポーター制度の周知やボランティア相談等を行うブースとともに、地域包括支援センターの相談窓口を設置しました。結果として、ボランティアに登録された方が1件、相談が2件あり、講座参加者を既存のボランティア制度や地域づくりの仕組みにつなぎ、「地域づくりを促進しよう！」という「認知症を知る月間」の目標に近づける成果がありました。

■講座の様子



左：会場受付
(七生公会堂 2F)



右：グスタフ講師



左：講演



右：スタッフ
集合写真

■開催概要

開催日時	平成 26 年 9 月 13 日 (土) 14:00~16:00 (開場: 13:30)
開催場所	七生公会堂
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	鳥飼梓氏 (地域包括支援センターあいりん)
定員 (参加者数)	115 名
プログラム (計 120 分)	1. 開会 挨拶 高齢福祉課 在宅サービス係 (5分) 2. 講演 (75分) 講師: グスタフ・ストランデル氏講演 ((株) 舞浜倶楽部代表取締役) テーマ: 私たちの認知症 ~認知症になっても自分らしく生きられる社会とは?~ 3. 市の取組み紹介・PR (15分) 地域包括支援センター/高齢者見守りネットワーク/SOSネットワーク 4. グスタフ氏からのコメント (5分) 5. 質疑応答 (10分) 6. 閉会、ボランティア・地域包括支援センターブースの紹介 (5分)

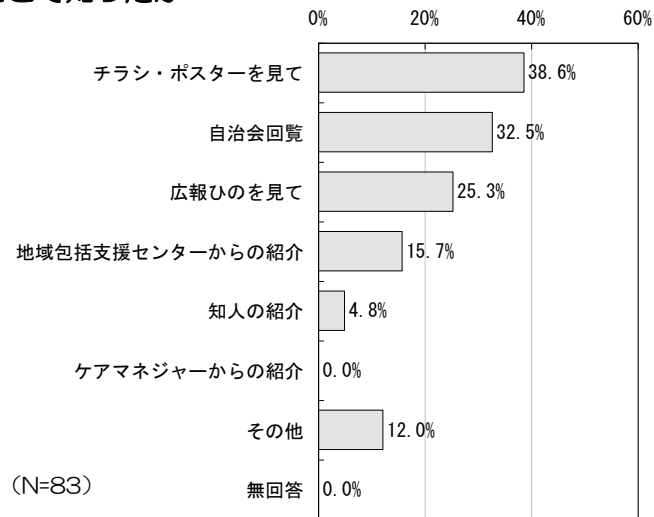
認知症啓発講座 アンケート結果

【アンケート回収状況】

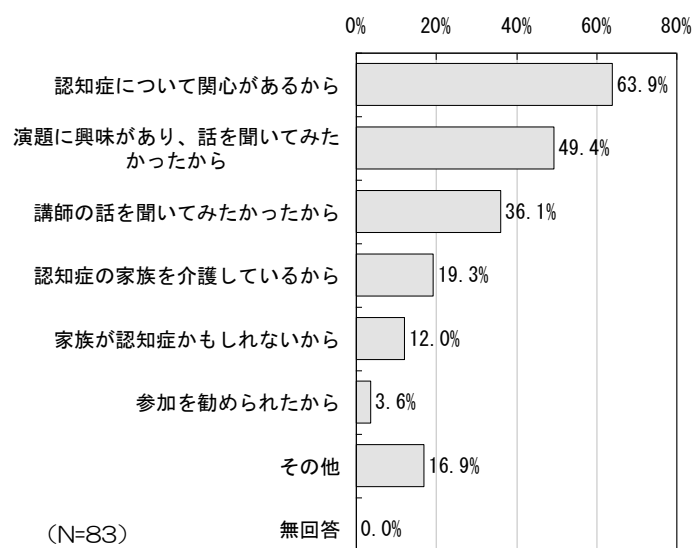
講座名：～認知症になっても自分らしく生きられる社会とは？～

参加者数：125 人 回収数：83 枚 回収率：66.4%

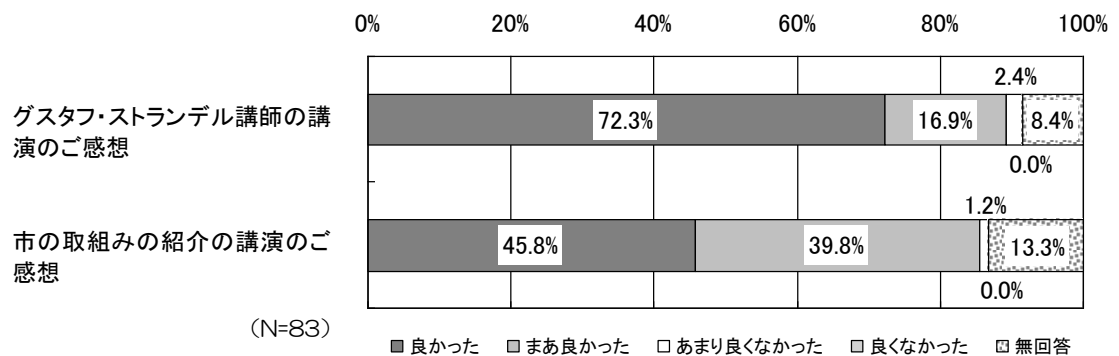
1. 講座についてどこで知ったか



2. 参加動機



3. 感想

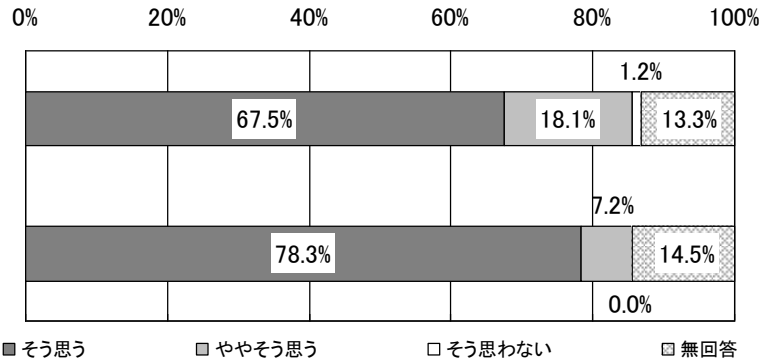


4. 講座で感じたこと

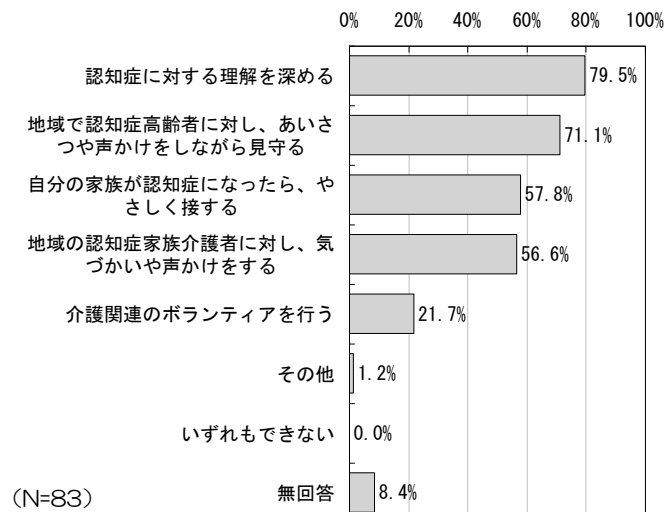
「認知症になっても自分らしく生きられる社会」について考える機会となった

認知症の方を地域で支える必要性を感じた

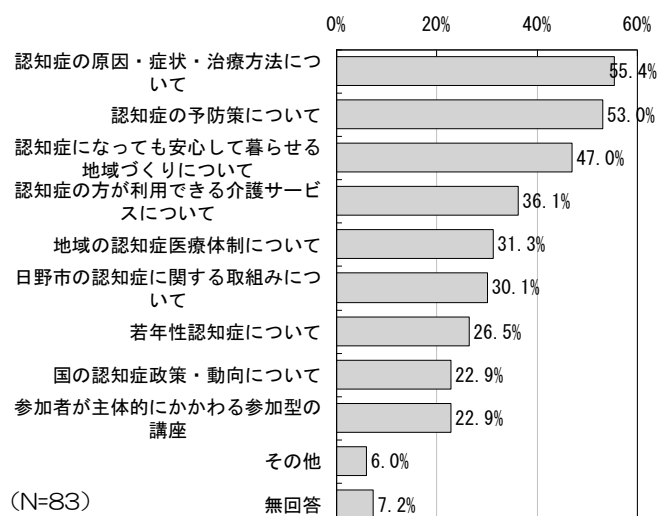
(N=83)



5. 「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」において、協力できること

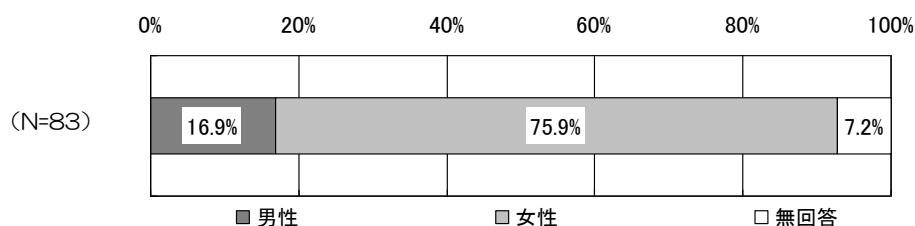


6. 今後、認知症に関する講座に期待する内容・テーマ等

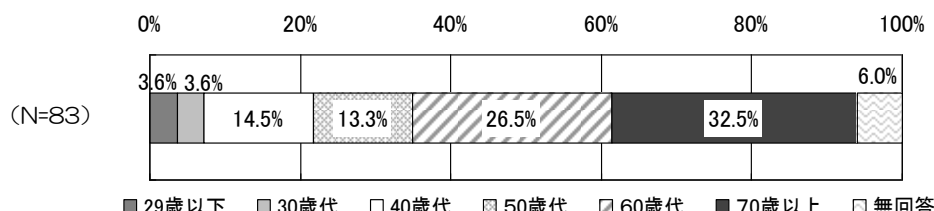


7. 属性

①性別



②年代



2) 認知症サポーター養成講座

平成 18 年度より地域住民等を対象として毎年、認知症サポーター養成講座を開催しています。これまで、講座の対象者は地域住民が中心でしたが、近年では、学校や民間企業など、対象の幅を広げて実施しています。平成 26 年度では、地域住民の他、コニカミノルタ株式会社や南観光交通などの民間企業、日野台高校 2 年生、明星大学実習生、日野市立三沢中学校 1 年生、日野市立第 4 中学校 1 年生などの学生を対象とした講座を実施しました。また、平成 22 年度から、日野市役所の全職員（病院を除く）の受講を目指して毎年職員対象の講座を開催しています。これまで日野市では、「認知症サポーター養成講座」は、受講希望者に対する出前方式で行っていましたが、「認知症を知る月間」の一環として、初めて公募方式で開催したところ、77 名と予想を超える参加があり、認知症サポーターを増やす方法として有効であることがわかりました。

これらを合計した平成 26 年度の講座開催回数は 37 回、参加者数は 1,578 人となり、過去 3 年間に於いて最大の参加者数がありました。これまでの講座参加者数累計は 7,716 人となり、日野市高齢者総合福祉計画で設定されたサポーター数の目標（平成 26 年度末時点で 5,000 人）を大幅に超える結果となっています。

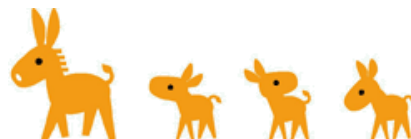
このように、認知症サポーター²の養成は進んでいますが、サポーターが地域で活躍する機会を検討する時期が来ているのではないかと認識から、平成 26 年度は「認知症サポーター養成講座」の取組みを「ステップアップ取組み」と位置づけました。このため、本市で初めてとなる「第 1 回キャラバンメイト³連絡会」を開催し、各地域

² 認知症サポーター養成講座を受講すると、「認知症サポーター」となります。

³ 認知症サポーター養成講座の講師

包括支援センターで実施しているサポーター養成講座のうち好事例の発表を行い、情報共有を行うとともに、今後のサポーター養成講座の推進に関するテーマについて話し合いを行いました。

■サポーター養成講座参加者内訳の推移 (平成 24 年度～平成 26 年度)



開催対象団体	平成 26 年度		平成 25 年度		平成 24 年度	
	受講者数	%	受講者数	%	受講者数	%
学校	589	37.3	328	38.6	143	12.6
企業・職域団体	407	25.8	233	27.4	246	21.7
行政関係	45	2.9	74	8.7	382	33.7
一般住民	537	34.0	214	25.2	361	31.9
※公募型	77	-	-	-	-	-
合計	1,578	100.0	849	100.0	1,132	100.0

■講座の様子

【市民対象（公募方式による認知症サポーター養成講座）】



左：高齢福祉課による挨拶
右：講座



左：会場にあふれる参加者
右：講師
(地域包括支援センター)



左：社会福祉協議会による
ボランティア制度の
説明
右：ボランティア登録に関
する質問・相談者

【民生委員を対象とした講座の様子】



左：講座を受講する
民生委員
右：同上

【市職員対象とした講座の様子】



左：高齢福祉課からの
あいさつ
右：講座の様子

【中学生を対象とした講座の様子】



全て：三中における講座の様子

認知症サポーター養成講座 アンケート結果

【アンケート回収状況】

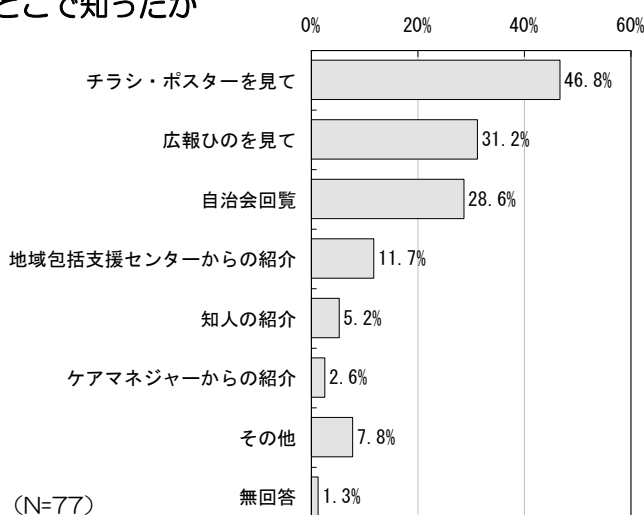
講座名：認知症サポーター養成講座

参加者数：77人（要確認）

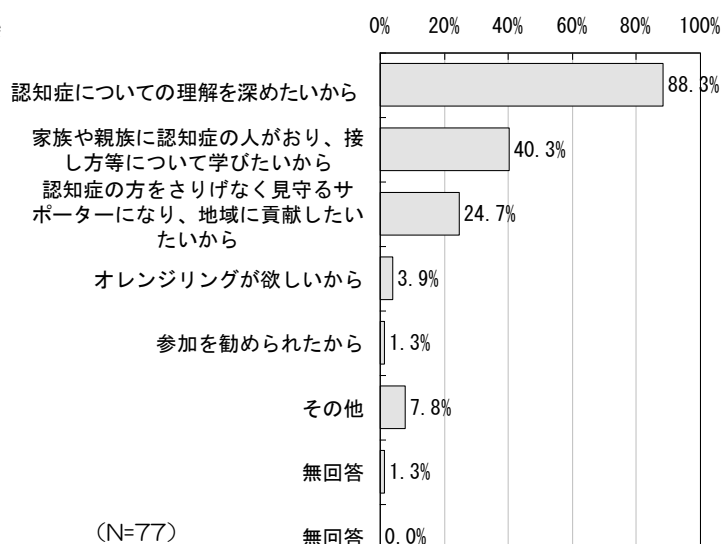
回収数：77枚

回収率：100.0%

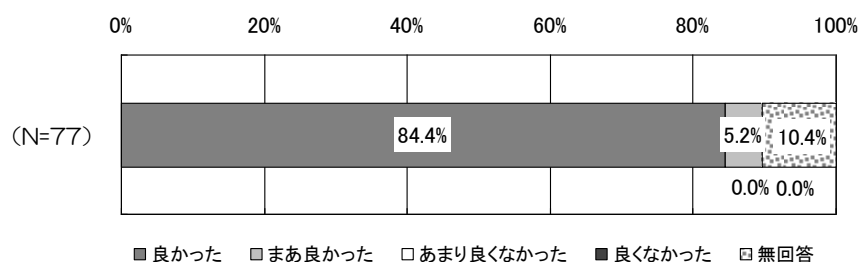
1. 講座についてどこで知ったか



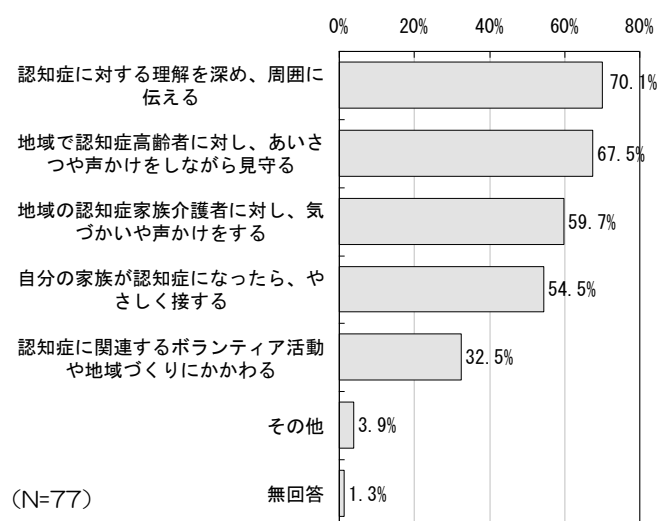
2. 参加動機



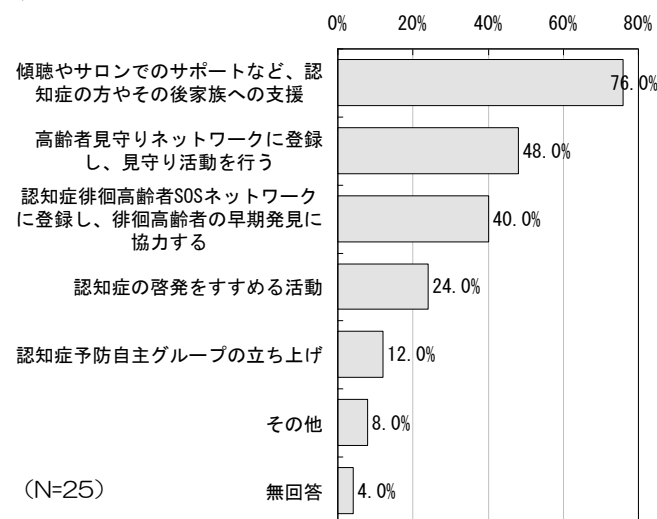
3. 感想



4. 「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」において、協力できること

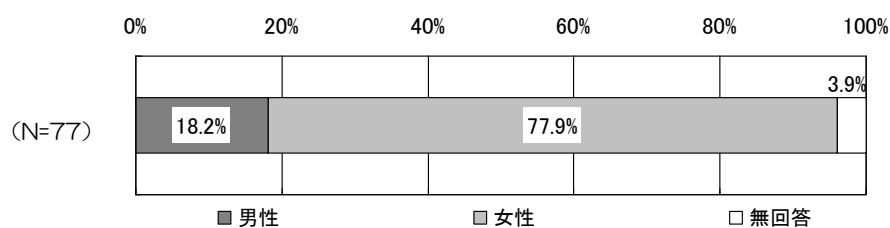


5. 具体的にやってみたい活動

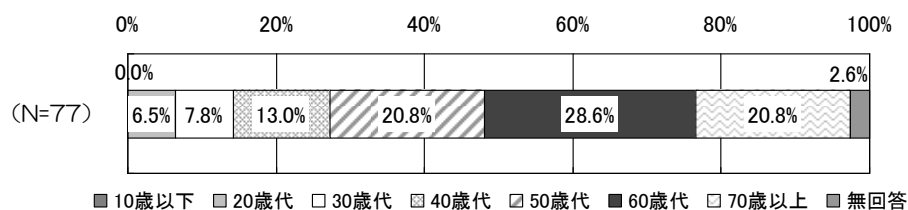


6. 属性

①性別



②年代



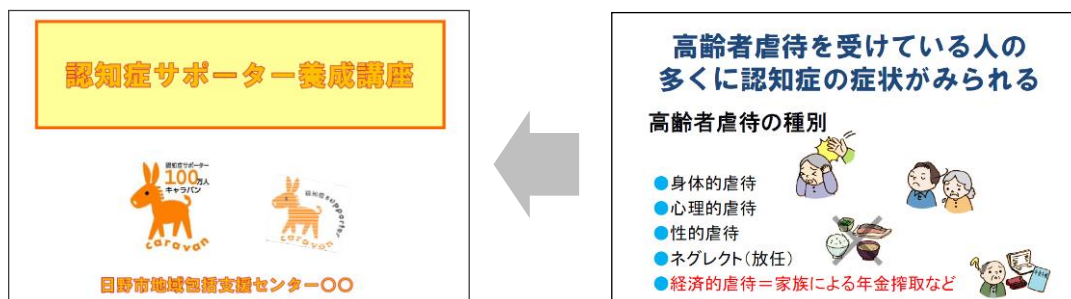
3) 虐待防止啓発

平成 26 年度は、各イベントにおいてちらしを配布したほか、認知症サポーター養成講座の標準教材や「知って安心認知症」のパンフレットに掲載したり、「認知症を知る月間」においても、市役所のパネル展示にて啓発を行ないました。

◆「知って安心認知症」



◆「認知症サポーター養成講座」のパワーポイント教材



地域みんなで、 高齢者虐待を防ごう！

～高齢者虐待は、誰にでも起こりうる
私たちの身近にある問題です～

平成 18 年 4 月 1 日「**高齢者の虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律**」が施行されました。この法律は、深刻な問題になっている高齢者への虐待を防止し、また、高齢者を介護する家族を支援することで、高齢者の権利や利益を守ることを目的としています。

Q. どうして高齢者虐待は起こるの？

高齢者を介護する家族の負担は考える以上に大きく、「家族だからこそきちんとしなければ」という責任からくる介護疲れにより虐待が始まることも少なくありません。また、認知症への理解不足により、自覚なく虐待を行ってしまっている場合もあります。



家族

【虐待の要因】

- 認知症に対する理解不足
- 介護疲れ
- 生活苦
- 人格や性格
- これまでの人間関係
- 介護に関する知識不足
- 家族・親族の無関心

特に、認知症高齢者への虐待が多くなっています

Q. 高齢者虐待にはどのようなものがあるの？

虐待は体を傷つけることだけではなく、心を傷つけることや、世話を放棄すること、年金の使い込みなども虐待にあたります。

身体的虐待



身体に傷やアザ、
痛みを与える暴力

心理的虐待



無視、脅し、言葉の
暴力など

介護・世話の 放棄、放任



食事を与えない
など

経済的虐待



必要なお金を渡さない、
年金の使い込み
など

性的虐待

本人が同意して
いない性的な行
為やその強要

※裏面もご覧下さい→

4) SOSネットワークの充実

日野市では、平成 20 年度から平成 21 年度にかけて、徘徊により行方不明となった高齢者の捜索・保護の体制として「日野市認知症徘徊高齢者 SOS ネットワーク」の仕組みを構築しました。これは、徘徊のおそれのある認知症の方の基本情報を事前登録し、徘徊発生時には関係機関への呼びかけを行うとともに、日野市メール配信サービスに登録している市民の方に情報をメールでお知らせし、捜索に協力頂くというものです。

平成 26 年度は、昨年度に引き続きこのネットワークの周知啓発の工夫に加え、ネットワークのマニュアルの見直しを行いました。周知啓発の工夫については、虐待防止啓発と同様、「知って安心認知症」や「認知症サポーター養成講座」の標準教材にちらしの内容を組み込みました。ネットワークの周知が徐々に広がった結果、平成 25 年度末には「SOSネットワークメール配信者数」が 5,853 人、「SOSネットワーク登録者数」が 195 人であったところ、平成 26 年度では、メール配信者数が 6,836 人、登録者数が 237 人と、1 年間でそれぞれ 983 人増、42 人増となりました。次年度は、事前登録者（徘徊のおそれのある高齢者）と協力市民（日野市メール配信サービスに登録することで見守りを行う市民）をともに増やすため、それぞれ効果的な啓発を検討していきます。

「SOSネットワークマニュアル」の見直しについては、夜間対応のフロー図や再発防止策の追加など、現実に即したわかりやすいマニュアルとなるよう改訂を検討しました。ケアマネジャーへのマニュアルの周知とネットワークの啓発のため、SOS ネットワークの手引き書を作成しました。

平成 27 年度では、事前登録者を見守る仕組みづくりが課題となっています。

◆SOS ネットワークの利用の手引き



～事前にポイントを確認しましょう～	
①家族の連絡先	●遠方の方は特に注意。自宅と携帯電話両方を聞きましょう。携帯電話は番号が変わっている場合もあるので、サービス担当者会議のタイミング等で定期的に確認を行いましょう。 ●家族はすぐにかけてくれるのか？遠方のため来れないのか？等を確認しておきましょう。 ●連絡先は2人以上を控ええましょう。 ●遠方の方でも、状況を説明しておき緊急時に連絡が入ることを伝えておきましょう。 ●お墓参りや親戚宅の訪問等、日常生活以外にお出かけをする時は、家族から必ず連絡をもらうようにしましょう。
②病歴、通院先、通院日（曜日や頻度）	●家の中から転落がない！今日はデイサービス？病院の日？中で働いているのかも？徘徊しているのかも？その日の予定を確認しておきましょう。
③鍵の管理	●腰がスベアキーを持っているのか確認しましょう。 ●アパートの方は不動産会社の連絡先も確認しておきます。 ●防犯の力はキーボックスが有効です。 ●オートロックのマンションの方は、家族の了解を得た上で、管理人に説明して緊急時は開けていただけるよう頼んでおきましょう。 【参考】中で働いている可能性がある場合は110番で警察を呼びます。危険性が低い場合には、警察や消防署が家族の了解を得た上で鍵や窓を破って入室する場合があります。
④徘徊を疑うポイント	【例】 ●よく行く親戚宅に電話して、来ていないことを確認した。 ●いつもデイサービスを楽しみに待っている方が今日に現れていない。 ●家族からお出かけをするという連絡を受けていない。
⑤下着に名前を書く	<日野警察署からのお願い！> ●警察に保護された時のため、身元がわかるよう下着に名前を書きましょう。

(4) 関係機関のネットワーク構築

【担当：多職種連携推進部会】

事業体系の「取組みの柱」、「3. 関係機関のネットワーク構築」については、下表の通り「取組みの柱」および「多職種連携研修」、「虐待防止マニュアルを活用した対応スキルアップ」の2つの「取組み」ごとに「対象」と「意図」および成果指標を設定し、1年間の取組みの総合評価は「A」（十分な成果が得られた）という結果でした。

方 針	認知症や虐待の問題を抱える高齢者が尊厳をもって地域で生活することができるよう、本人や家族を地域で支える体制づくりをさらに進めます
取組みの柱	3 関係機関のネットワーク構築

担当部会	多職種連携推進部会	記入者	堀田 志保子
------	-----------	-----	--------

1 取組みのねらい

(1) 取組みの柱の「対象」と「意図」		
主な対象	(具体的な対象)	意図 (対象がどのような状態になっているか)
関係機関	- 包括 - 医療関係者 - 商店 - ケアマネ・介護保険事業所 - 公共機関 - 地域住民 - 学校 - 民生委員 - 金融機関等	顔の見える関係のもと、認知症の方と家族の役に立っている

(2) 取組みの「対象」と「意図」		
取組み (取組みの柱の意図を実現するための手段)	対象	意図
1) 多職種連携研修	関係機関	顔の見える関係がある 関係機関の対応力が向上している
2) 虐待防止・対応スキルアップのための勉強会	関係機関	虐待の小さな芽を摘み、虐待に至らせない。

2 成果指標

(1) 成果指標の推移と達成状況							
取組み	成果指標	単位	前年度実績	実績値		目標値	達成度
			H25	H26中間	H26最終		
1)	① 参加人数	名	55	120 (第1回76、第2回44)	—	80	◎
	② 参加機関の種類	種	4	18 (第1回：13、第2回：5)	12	6	◎
	③ 意図した内容を理解した割合 (アンケート結果) 第1回：つながろう関係機関、第2回：パーキンソン症状のある認知症高齢者	%	73	96 (第1回：96、第2回：96、第3回：98)	—	80	◎
	④ 顔の見える関係度 (交換した名刺の数)	枚	—	52 (第1回)	—	10	△
2)	⑤ 参加人数	名	85	45 (包括)	59	85	◎
	⑥ 意図した内容を理解した割合 * マニュアル勉強会：マニュアルの理解	%	—	98	100	90	◎

3 取組みの柱の点検【最終評価】

記入年月日 H27年 2月 6日

(1) 取組みの成果 (「取組みの柱の意図」に対してどのような成果があったか、箇条書きで簡潔に記入)	
3回の取組で30機関と結びつくことができた。普段なかなか関わることの少ない機関とのつながりができて、有意義だったという意見が多かった。参加人数も多く、顔の見える関係づくりができた。 - 関係機関とグループワークを行うことで、それぞれの役割を知ることができた。 - 第3回の研修は、サービス事業所の職員が、虐待を意識して利用者や家族と関わることや、自分の立場なら何ができるかを学ぶことができた。虐待の一手手前で防ごうという意識を共有できた。	
(2) 次年度に向けた課題 (現状の懸案事項や新たに対応すべき課題等を箇条書きで簡潔に記入)	
- 多職種連携は、継続して取り組むことにより、関係性が深まる。 - 虐待の気づき研修は毎年行うべき。虐待の一手手前で関わるように、サービス事業所の多くの職員に受けていただきたい。 - 事業所の職員 (現場の職員) が出やすい工夫が必要である。(時間帯など)	
(3) 取組みの柱についての総合評価	
A	A : 達成した。十分な成果が得られた。
	B : おおむね達成した。おおむね成果が得られた。
	C : 目標達成までには至らなかった。期待した成果が得られなかった。

平成 25 年度までは、警察や保健所、市役所の関連部署、ケアマネ協議会、権利擁護センター、地域包括支援センターなどの公的機関を中心としたネットワークづくりを「関係機関連絡会」として開催していましたが、ある程度成果が得られたため、本事業の取組みから外しました。平成 26 年度は、「地域レベルでの顔の見える関係づくり」を目指し、民生委員、商店、介護保険事業所、金融機関、学校など地域のあらゆる担い手同士の顔の見える関係づくりの場として「多職種連携研修」を展開し、平成 26 年度はこれをステップアップ取組みとして位置づけました。

3) 多職種連携研修 ◎ステップアップ取組み			
対象	・包括 ・医療関係者 ・商店 ・介護保険事業所 ・公共機関	・民生委員 ・金融機関等 ・ケアマネ ・学校 ・地域住民	意図 顔の見える関係のもと、認知症の方と家族の役に立っている
ステップアップの目標		1. 介護事業所、医師、薬剤師、ケアマネ、民生委員等地域の関係者による顔合わせ・話し合いの機会の創出	
取組み内容		①第1回研修「つながろう関係機関～認知症高齢者とその家族への支援～」ケアマネと民生委員と市役所5課とのグループワークを行った。 ②第2回研修「パーキンソン症状がみられる認知症高齢者の初期対応のポイント」地域包括支援センターの事例とともに、パーキンソン病やその他の疾患の見分け方や医療との連携方法を学んだ。 ③第3回研修「高齢者虐待～あなたならどうする？その気づき～」介護サービス事業所職員とケアマネと包括社会福祉士で事例検討した。	
成果		・ケアマネと民生委員と市役所5課がそれぞれの役割を理解することができた。あまりつながりの無かったところと、相談しやすい関係ができた。 ・サービス事業所とケアマネと包括のつながりが深まった。	
評価		A	
課題・解決策		・今後も多職種が集まる機会を作る必要がある。 ・他事業（介護人材研修：福祉政策課、ケアマネ交流会：主任ケア会等）で行われる研修と内容が重ならないように、早目に情報交換した方がよい。	

A: 達成した。／ B: おおむね達成した。／ C: 目標達成までにいたらなかった。期待した成果が得られなかった。

1) 多職種連携研修

①第1回多職種連携研修：

「つながろう関係機関～認知症高齢者とその家族への支援～」

第1回多職種連携研修は、認知症高齢者本人・家族を支援するための他部署との顔の見える関係づくりを目的に、「つながろう関係機関～認知症高齢者とその家族への支援～」と題し、ケアマネジャー・民生委員・市役所5課を交えたグループワークを行いました。

研修の冒頭には、各課の相談対応業務についての説明を行い、グループワークでは、「自己紹介」、「ケースワーカー・保健師への質問」、「家族支援で連携しよう！」という3ステップで話し合いを進めました。

アンケート結果から、「認知症高齢者や支援における関係機関との連携方法」について、ほぼ全員が「理解できた」と回答しており、成果がありました。また、会の最後には名刺交換の場を設け、お互いに顔と名前が一致する関係のきっかけをつくりました。

■開催概要：

開催日時	平成 26 年 8 月 1 日（金）14：00～16：00
開催場所	505 会議室 8 名×10 テーブル
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	飯沼 一将 氏（地域包括支援センター）
定員（参加者数）	80 名
プログラム （計 120 分）	14：00 開会 高齢福祉課長から挨拶 ・日野市の地域包括ケアシステム構築に向けて（4 分） 14：05 「各課の相談対応業務について」（20 分） 14：25 グループワークにあたって注意事項（個人情報守秘義務） 14：30 グループワーク ステップ①「自己紹介」（10 分） ステップ②：「ケースワーカー・保健師に質問！」 ステップ③：「家族支援で連携しよう！」（50 分） 15：30 グループ発表（10 分） 15：40 まとめの一言 堀田氏（1 分） 15：41 名刺交換 15：55 認知症を知る月間 PR 吉沢（1 分） 15：56 閉会
配布資料	次第/事前アンケート結果/民生委員紹介ちらし/ささえあいの介護保険 セーフティネットコールセンター広報6月1日号/平成26年度各種健診の ご案内/認知症を知る月間ちらし/アンケート
設置資料	家族交流会ちらし/SOSNWちらし/見守り支援NWちらし/乳がん講演会 ちらし/認知症を知る月間ちらし（配布用）

■講座の様子：



グループワークの様子



②第2回多職種連携研修

第2回多職種連携研修は、認知症高齢者を支える地域包括ケアシステムを構築していくため、地域包括支援センターの職員を対象に、「パーキンソン症状のある認知症高齢者への初期対応」をテーマに、症例を通じた疾患の見分け方、医療と介護の連携の方法、日野市における地域包括ケアシステムについて学びました。

研修会には、精神・神経科学振興財団及び日野市医師会の協力を得て、同財団常務理事・順天堂大学客員教授の佐藤猛先生、東海大学八王子病院神経内科徳岡健太郎先生、日野のぞみクリニック院長望月諭先生を講師としてお招きしました。前半は各専門家からの講義を頂き、後半は地域包括支援センターからの事例相談に対し先生方からアドバイスを頂き、有意義な会となりました。

■開催概要：

開催日時	平成26年8月21日（木）17：30～19：30
開催場所	日野市民会館2F（小ホール側）展示室1
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	佐藤 猛先生、本村 雄一氏（地域包括支援センターあいりん）
定員（参加者数）	地域包括支援センター33名、高齢福祉課6名
プログラム	1. 開会 高齢福祉課から挨拶 2. 「パーキンソン症状のある認知症高齢者：ケアマネジメントにおける緊急性の判断と対応」（20分） 講師：佐藤 猛先生 （精神・神経科学振興財団常務理事、順天堂大学客員教授） ・パーキンソン症状による疾患の見分け方 ・地域包括ケアにおける初期対応の必要性 ・ケアマネジメントにおける緊急性の判断 3. 「医療と介護の連携～大学病院としてできること～」（20分） 講師：徳岡 健太郎先生（東海大学八王子病院 神経内科講師） ・大学病院が地域包括ケアシステムの中でお手伝いできること ・地域の病院、診療所に望むこと。 4. 日野市における地域包括ケアシステム 講師：望月 諭先生（日野のぞみクリニック院長） 5. 認知症を知る月間（医療相談会）の実施について ほか 6. 圏域ごとに地域包括支援センターからケース相談、先生方からアドバイス 7. まとめ（佐藤先生より） 8. 閉会
配布資料	次第/アンケート用紙/講義レジュメ/姿勢・歩行障害・転倒へのアセスメント/精神・神経科学振興財団パンフレット/東海大八王子病院パンフレット/日野のぞみクリニックパンフレット/患者さんから学ぶ医療と介護

■研修の様子



左：全体

右：佐藤先生による講演

③第3回多職種連携研修：

「高齢者虐待～あなたならどうする？その気づき～」

第3回多職種連携研修は、虐待を防止するための気づきの視点の養成と関係者の顔の見える関係づくりを目的に、居宅系サービス事業所の職員を主な対象者として、「高齢者虐待～あなたならどうする？その気づき～」をテーマに開催しました。

アンケート結果からは、日野市の高齢者虐待対応について知ることができた、虐待を多角的に考えることができた、少しでも「あれ？」と思ったら情報共有していきたい、といった感想があり、目的を達成することができました。

■開催概要：

開催日時	平成 26 年 1 月 27 日（火）10：00～12：00
開催場所	市役所 505 会議室 7 名×10 テーブル
実施主体	日野市高齢福祉課
司会	堀田 志保子 氏（地域包括支援センターあさかわ）
コメンテーター	高橋 智子 氏（高齢者権利擁護支援センター）
定員（参加者数）	70 名（居宅介護支援事業所 10 名、居宅系サービス事業所 50 名） （訪介 6、訪入 1、訪看 9、訪リハ 1、デイ 45、通リハ 7、ショート 7、医療ショート 5、認デイ 4、定期巡回型 1、小規模 6 合計 122 事業所）
プログラム （計 120 分）	1. 開会 高齢福祉課から挨拶・虐待の芽に気づいた時の連携のお願い（関課長 2 分） 2. コメンテーター高橋氏の紹介（司会） 3. 「日野市の高齢者虐待対応」（飯沼氏 28 分） *日野市の受付状況 通報元は事業所、CM *高齢者虐待の種類 *マニュアルフロー図 通報～対応 *虐待のとらえ方 自覚を問わない、養護者と被虐待者両方を支援するイメージ *ポジション 各自の役割とチームの作り方 *人情報と通報義務

	4. グループワークにあたって注意事項（個人情報守秘義務） 司会（1 分） ＊ここで知った内容を外で話さない、氏名・住所は言わない 5. 今回の事例の紹介 3事例 司会（3分） 6. グループワーク ステップ①：「自己紹介」（5 分） ステップ②：ミニ事例 ABC「こんな場面に遭遇したら・・・？」（40 分） 7. グループ発表（40 分） 8. 全体のまとめ 11:48 「対応のポイント」高橋氏（5 分） 9. まとめの一言 廣川氏（1 分） 10. 閉会 司会
配布資料	次第/日野市の高齢者虐待対応 資料（高齢者虐待とは、日野市高齢者虐待対応・防止マニュアルから 15、16 ページ/平成 25 年度日野市認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業実施報告書から 69 ページ）/ ミニ事例（事例 AB 概要、ジェノグラム）/アンケート
設置資料	家族交流会ちらし/SOSNWちらし/見守り支援NWちらし/知って安心認知症

■講座の様子



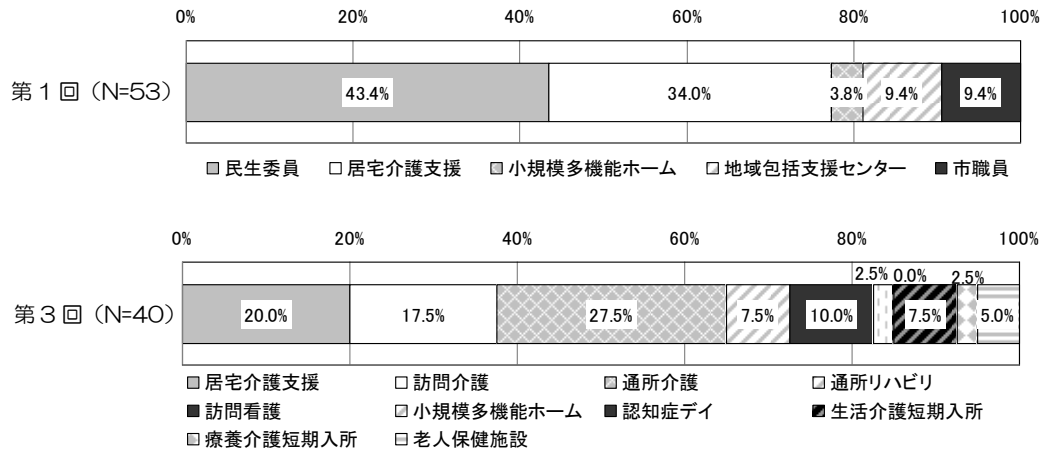
グループワークの様子

多職種連携研修 アンケート結果

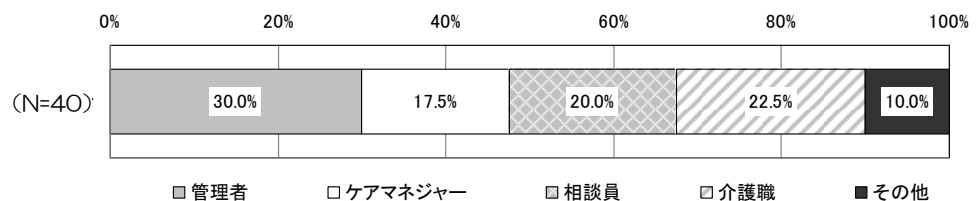
【アンケート回収状況】

- 第1回：「つながろう関係機関～認知症高齢者とその家族への支援～」
平成26年8月1日 参加人数：76人 回収数：53枚 回収率：70.0%
- 第2回：「パーキンソン症状がみられる認知症高齢者の初期対応のポイント」
平成26年8月21日 参加人数：41人 回収数：27枚 回収率：84.0%
- 第3回：「高齢者虐待 ～あなたならどうする？その気づき～」
平成27年1月27日 参加人数：45人 回収数：40枚 回収率：88.9%

1. 事業所種別（第1回、第3回）



2. 回答者の立場（第3回）

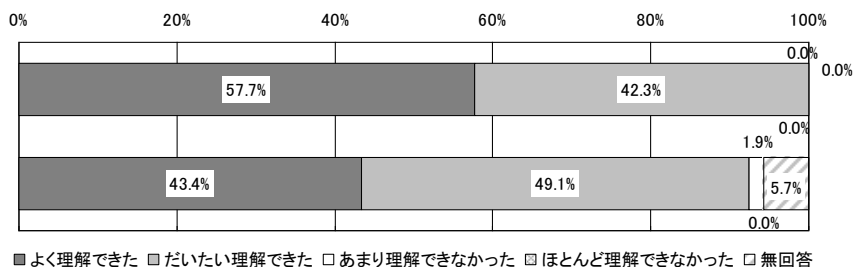


3. 講義を理解できたか

第1回

各課の相談対応業務
認知症高齢者や支援における関係機関との連携方法

(N=53)



第2回

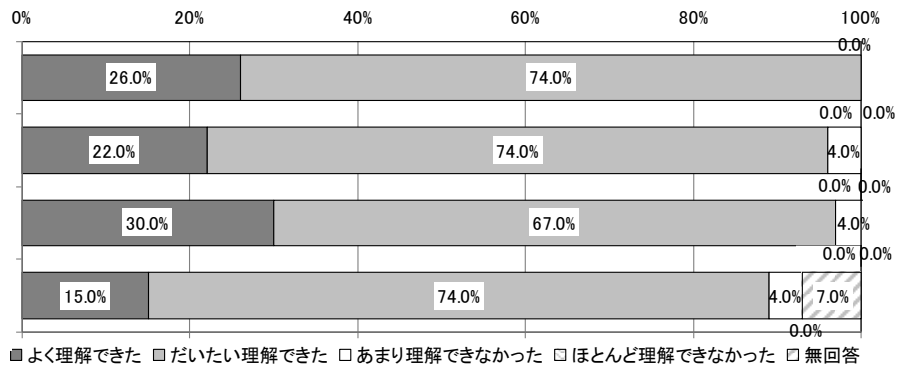
パーキンソン症状のある認知症高齢者：緊急性の判断と対応

医療と介護の連携～大学病院としてできること

日野市における地域包括ケアシステム

事例を通じて、初期の対応方法を理解できたか

(N=27)



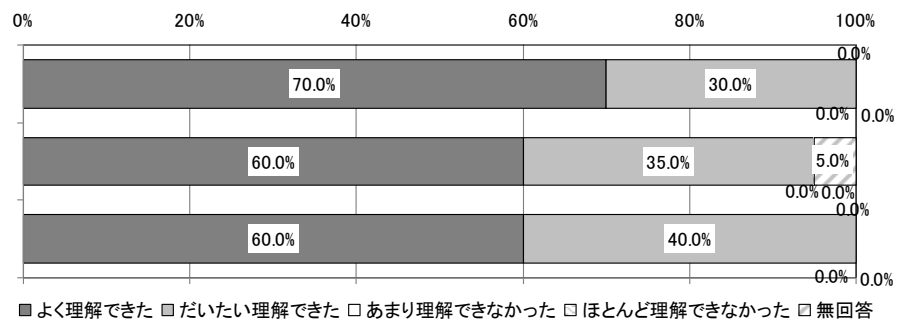
第3回

認知症高齢者や支援における関係機関との連携方法

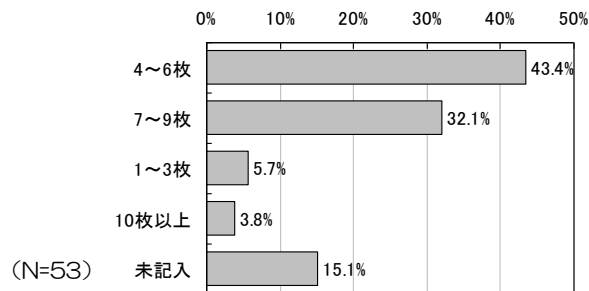
虐待が起きてしまっている事例について、関係機関との連携方法

虐待を早期発見するための“気づきの視点”

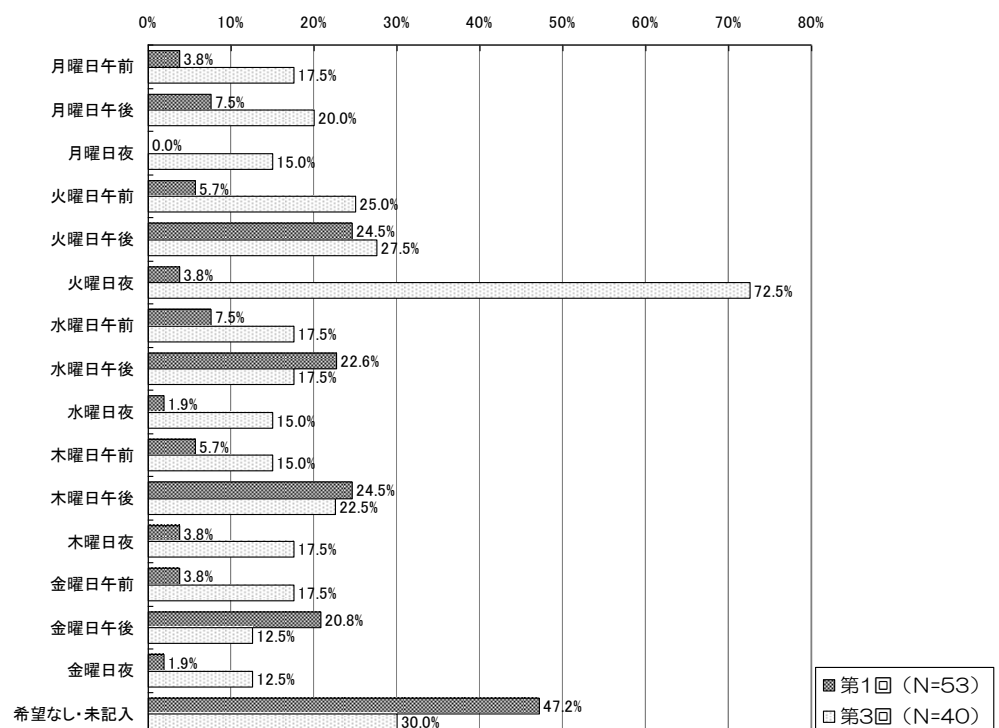
(N=40)



4. 交換した名刺の数（第1回）



5. 参加しやすい曜日・時間帯（第1回、第3回）



2) 虐待対応・防止マニュアルを活用した対応スキルアップ

日野市では、平成 18 年度、虐待案件への対応の流れや帳票類を定めた「高齢者虐待対応・防止マニュアル」の作成を行い、平成 19 年～平成 21 年度まで毎年、一部の改訂を行ってきました。昨年度は、マニュアルの運用にばらつきが見られることや、帳票類の整理の必要性が認識されたことから、①長期的に関わるケースへの対応、②運用にあわせたマニュアル、③関係機関の動きがわかる改訂、の 3 つの視点を踏まえて大幅な改訂を行い、平成 26 年 4 月に改訂版が完成しました。

平成 26 年度は、地域包括支援センター職員に対し、マニュアルの理解を深めるため、5 月に 4 回に分けて勉強会を開催しました。平成 27 年 1 月に開催した多職種連携研修においては、介護サービス従事者に対し、マニュアルに沿った対応の流れの理解促進を図りました。多職種連携研修のアンケートでは、参加者全員がマニュアルについて理解できた、と回答しており、虐待防止対応マニュアルの理解が進みました。

■開催概要：

開催日時等	第1回地域包括支援センター対象
	平成26年5月16日 9：30～11：00 於：カトレア 【ひの圏域】
	平成26年5月20日 13：30～15：30 於：福祉支援センター 【たかはた圏域】
	平成26年5月22日 9：30～11：30 於：すてっぷ 【とよだ圏域】
	平成26年5月23日 15：30～17：00 於：いきいきタウン 【ひらやま圏域】
	第2回介護サービス事業所対象（第2回多職種連携研修）
	平成27年1月27日 10：00～12：00 於：日野市役所 505 会議室 テーマ：「高齢者虐待～あなたならどうする？その気づき～」

3) 認知症ケアパス作成に向けた社会資源の整理

認知症高齢者の増加が見込まれるなか、認知症高齢者のケアの流れを示す「認知症ケアパス」の作成が求められています。日野市では、平成 27 年度より地域包括支援センターに設置される地域支援推進員が認知症ケアパスを作成する予定ですが、これに先がけ、多職種連携推進部会にて社会資源の整理を行いました。



	日時
第1回	平成27年2月2日（月） 10:00～11:30 市役所会議室
第2回	平成27年2月20日（金） 10:00～12:00 市役所会議室

4. 事業推進の成果と課題

(1) 事業評価

本事業は、事業開始時に部会にて各取組みの目標を設定し、年度中間および最後に達成度を評価（１次評価）しています。部会による評価結果は、事務局での確認（２次評価）を経て推進会議に報告しています。

平成 26 年度の最終評価について、成果指標及び視点・課題の達成状況を総合した合計値は、「多職種連携推進部会」が 2.9 で最も高く、次いで「市民啓発部会」が 2.4、「家族支援部会」が 2.2 という結果でした。「ステップアップ取組み」および「総合評価」の平均は「家族支援部会」が「B」（おおむね成果が得られた）、「市民啓発部会」、「多職種連携推進部会」が「A」（十分な成果が得られた）という結果でした（詳細については、p.65 を参照）。

■部会による一次評価/事務局による２次評価を経た評価結果

部会	成果指標、視点・課題 の達成状況の合計値	ステップ アップ取組み	総合評価
家族支援部会	2.2	B	B
市民啓発部会	2.4	A	A
多職種連携推進部会	2.9	A	A

■事業評価シートから見える主な課題

部会	取組み	課題	解決策
家族支援部会	認知症地域資源 情報の運用	データベースが活用さ れておらず、家族支援 に十分に生かされてい ない	1. 目的の明確化 2. 使いやすさの向上
市民啓発部会	市民啓発講座	集客が目標を大きく下 回った	1. 開催日時の選定 2. 周知 PR の工夫

「家族支援部会」の総合評価が低い要因としては、「認知症地域資源情報の運用」の取組みが進まなかったことが大きく、「市民啓発部会」において成果指標・視点・課題の達成状況の合計値がやや低い要因としては「市民啓発講座」の成果指標の達成率が低いことが挙げられます。

「認知症地域資源情報の運用」については、次年度作成予定の「認知症ケアパスの作成」との棲み分けを含め、改めて目的を明確にするとともに、より使いやすいデータベースとすることが求められています。また、市民啓発講座については、もともとの目標値が高かったということも達成率の低さに影響していますが、各種イベントが重なる９月における開催の中で、「①開催日時の選定」、「②周知 PR の方法の工夫」が

必要であり、①については、他イベントとの同日開催を避ける、または、2週連続のイベント開催を避ける、ことが集客につながるという解決案が出されました。②については、認知症の人のご家族や事業所など、多様な主体との協働企画にすることで、市民が求めているテーマにより即した内容とするとともに、家族や関係者から暮らしを周囲に渡していただくとより確実に来ていただけるのでは、という意見が出されました。

さらに、推進会議にて2次評価をもとに各取組みについて評価を行ったところ、下表の通り成果および課題が挙げられました。主な成果と課題は以下の通りです。

■推進会議における意見①成果

取組み	成果
1) 認知症を知る月間 (認知症家族介護者支援講座)	①事業所等との協働企画が先進的 ②周知方法としての効果
2) 認知症家族交流会	①継続参加者や新規参加 ②圏域を越えた取組み(モデル事業)
3) 認知症サポーター養成講座	①公募型講座の有用性 ②メイト連絡会開催が実現
4) SOS ネットワーク	登録者増
5) 多職種連携研修	多職種連携研修による顔の見える関係づくり
6) 虐待防止マニュアルの勉強会	虐待防止マニュアルの勉強会の有用性

■推進会議における意見②課題

取組み	課題
認知症家族交流会	① 「いつでも愚痴をこぼせる」という状況には至っていない ② 目標と達成度の明確化 ③ 他圏域への声かけ ④ 自主化の促進
認知症地域資源情報の運用	① 来期に課題を残した ②活用方法の周知不足 ③ 情報ツールの改善 ④更新方法も課題
認知症啓発講座	どれだけの人が普段から意識しているのか不明
認知症サポーター養成講座	受講者は認知症の人への実際の対応方法
SOS ネットワークの充実	① SOS 事前登録者増(知らないCM 多いのでは)。 ② 具体的なマニュアル改善案の提示

ステップアップ取組み(「家族介護者交流会」、「認知症サポーター養成講座」「多職種連携研修」)については、ある程度の成果が見られましたが、「家族介護者交流会」、「認知症サポーター養成講座」においては課題が残ることから、引き続き取組みを強化し、更なるステップアップを図ることが必要です。

(2) 次年度の方向性

平成 27 年度の方向性として、概ね平成 26 年度の事業を継承し、平成 27 年度に新たに各地域包括支援センターに配置される認知症地域支援推進員を中心に進めていくことが確認されました。

■次年度の方向性（事務局案）

項目	内容
1. 取組みの柱と取組み ○ ステップアップ取組み 認知症を知る月間対象取組み	1) 家族支援部会：①認知症家族支援講座 ②認知症カフェ ③家族ニーズの把握（座談会等の開催） 2) 市民啓発部会：①認知症市民啓発講座 ②認知症サポーター養成講座 ③キャラバンメイト連絡会【新規】 ④虐待防止啓発 3) 多職種連携推進部会： ①多職種連携研修 ②SOS ネットワークの見直し検討 ③認知症高齢者見守りネットワークの検討【新規】
2. 運営体制	※平成 27 年度に地域包括支援センターに新規に設置される認知症地域支援推進員が1) および2) の双方を担当する。 1) 推進会議：3回、部会（数回：6～7回） 2) 認知症地域支援推進員連絡会：12 回（うち3回は推進会議）

■平成 26 年度 認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業 最終評価結果

【事業評価】

部会名		中間／最終	成果指標数	成果指標の達成状況(平均値)			視点・課題数	視点・課題の達成状況(平均値)			合計値	ステップアップ	総合評価
				1	2	3		1	2	3			
1. 家族支援部会	1) 認知症家族介護者支援講座	中間	1			3.0	4			2.8	2.9	B	B
		最終	1			3.0	4			2.5	2.8		
	2) 認知症家族介護者交流会	中間	2			2.0	4(／5)			2.5	2.3		
		最終	2			2.5	4(／5)			2.5	2.5		
	3) 認知症地域資源情報の活用	中間	0(／1)			－	0(／3)			－	－		
		最終	1			1.0	3			1.6	1.3		
	合計	中間	3(／4)			2.5	8(／12)			2.7	2.6		
		最終	4			2.2	11(／12)			2.2	2.2		
2. 市民啓発部会	1) 市民啓発講座	中間	2			1.0	2			2.5	1.8	A	A
		最終	2			1.0	2			2.5	1.8		
	2) 認知症サポーター養成講座	中間	1(／2)			1.0	6			2.2	1.6		
		最終	2			3.0	6			3.0	3.0		
	3) 虐待防止啓発	中間	1			－	2			3.0	3.0		
		最終	1			1.0	2			3.0	2.0		
	4) SOSネットワークの充実	中間	2			2.0	3			2.3	2.2		
		最終	2			2.5	3			3.0	2.8		
	合計	中間	6(／7)			1.3	13			2.5	1.9		
		最終	7			1.9	13			2.9	2.4		
3. 多職種連携部会	1) 多職種連携研修	中間	4			2.3	5			3.0	2.7	A	A
		最終	4			2.5	5			3.0	2.8		
	2) 虐待防止・対応スキルアップのための勉強会	中間	2			－	2			2.5	2.5		
		最終	2			3.0	2			3.0	3.0		
	合計	中間	4(／6)			2.3	7			2.8	2.6		
		最終	6			2.8	7			3.0	2.9		

【算定根拠】

1) 成果指標：◎3点、○2点、△、1点

2) 視点・課題：できている＝3、まだ課題はあるが、概ねできている＝2、できていない＝1 3) 数式：対象指標（視点・課題）の評価結果数値の合計／対象指標（視点・課題）数

【総合評価】Q目指す姿が達成できたか（「対象」と「意図」が実現したか）？

1. 家族支援部会	対象	・配偶者 ・兄弟、姉妹 ・子ども(同居・別居) ・義理の息子、娘 ・孫 ・その他	意図	自分だけではないという安心感を持って、地域の中で受け入れられながら本人や家族が生活している ＜取組み別＞ ①認知症家族介護者支援講座：「認知症に関する専門知識や介護技術が身についている」 ②認知症家族交流会：「いつでも愚痴をこぼせる機会やリフレッシュの機会がある」 ③認知症地域資源情報の検討：「地域や専門機関の情報が包括から手に入る」
-----------	----	--	----	--

(1) 取組みの成果（「取組みの柱の意図」に対してどのような成果があったか、簡条書きで簡潔に記入）

・「家族介護者支援講座」は「認知症と歯科口腔」という時流に合ったテーマ設定で、家族の関心も高く、満足度・理解度ともに高評価であった。また、地域密着型サービス事業者、ケアマネ協会との協働企画により運営に広がりがあった。
・「認知症カフェ」に利用者が参加したことで、次につながるきっかけとなった。
・「家族介護者交流会」の自主企画モデル事業（バスツアー）では、家族の要望をもとに企画運営を行い、参加者の満足度も高く、息抜き・リフレッシュの場となった。
・「家族介護者交流会」の新規参加者は増えたが、本事業で取組んでいる各種イベントでの周知を受けての参加が多かったとは言えない。
・「地域資源情報」に関してはまだまだ活用されておらず、家族支援に十分に生かされていない。

(2) 次年度に向けた課題（現状の懸案事項や新たに対応すべき課題等を簡条書きで簡潔に記入）

・「家族介護者支援講座」は、企画内容は良かったが、より多くのご家族に参加頂けるよう「認知症を知る月間」以外の時期に開催することも要検討。
・「各圏域の家族介護者交流会」に関して、より多くの方（新規）に参加していただけるよう広報の方法を工夫・検討する必要がある。
・「家族介護者交流会」は立案、家族参画などの、認知症の方や家族の方の視点を重視した取組検討。「家族意向の把握」の方法等について要検討。
・「地域資源情報」については、次年度以降検討される「認知症ケアパス」との関連も考慮して、形状も含め再度見直し必要。

2. 市民啓発部会	対象	・日中日野市にいる市民（学生、在勤者含） ・若い世代 ・認知症の方の近隣の住民 ・子育てを終えた主婦 ・普段認知症に全く関係ない人 ・認知症の方の世話をしている人	意図	認知症に対する理解を深め、みなで協力しながら安心して生活している ＜取組み別＞ ①認知症啓発講座：「認知症についての正しい知識を得て、理解を深めている」 ②認知症サポーター養成講座：「みなで支えあう意識がある」 ③虐待防止啓発：「虐待をしない・させていない」 ④SOSネットワーク：「SOSの仕組みを知り、協力している」
-----------	----	--	----	---

(1) 取組みの成果（「取組みの柱の意図」に対してどのような成果があったか、簡条書きで簡潔に記入）

・「認知症月間」において、各機関（グループホーム、社会福祉協議会、小規模多機能等、図書館など）様々な主体との連携ができたことで、広報PRや情報発信が広がりを見せ、市民の認知症に対する理解を効果的に深めることができたと考えられる。
・はじめての公募型サポーター養成講座も盛況であり、メイト連絡会開催による地域の人材育成の第1歩も踏み出せ、みなで支えあう意識を高める取組みが進んでいる。
・単体では難しい虐待啓発やSOSネットワークの取組みを「知って安心認知症」のちらしに盛込んだり、「認知症サポーター養成講座」のPPTに盛込むことによって恒常的に啓発できる仕組みを作った。

(2) 次年度に向けた課題（現状の懸案事項や新たに対応すべき課題等を簡条書きで簡潔に記入）

・効果的にサポーターを増やす為の仕組み作り（キャラバンメイト研修と定期的なキャラバンメイト連絡会の実施）
・認知症に対する社会資源となる人材の育成（ステップアップ講座等の検討）

3. 多職種連携推進部会	対象	・包括 ・民生委員 ・医療関係者 ・金融機関等 ・商店 ・ケアマネ・介護保険事業所 ・公共機関 ・地域住民 ・学校	意図	顔の見える関係のもと、認知症の方と家族の役に立っている ＜取組み別＞ ①多職種連携研修：「顔の見える関係がある」「関係機関の対応力が向上している」 ②虐待防止・対応スキルアップのための勉強会：「虐待の小さな目を摘み、虐待に至らせない」
--------------	----	--	----	--

(1) 取組みの成果（「取組みの柱の意図」に対してどのような成果があったか、簡条書きで簡潔に記入）

・3回の取組で30機関と結びつくことができた。普段なかなか関わることの少ない機関とのつながりができて、有意義だったという意見が多かった。参加人数も多く、顔の見える関係づくりができた。
・関係機関とグループワークを行うことで、それぞれの役割を知ることができた。
・介護サービス事業所と高齢者権利擁護支援センターと協働企画ができ、更なる顔の見える関係づくりに効果があった。
・第3回の研修は、サービス事業所の職員が、虐待を意識して利用者や家族と関わることや、自分の立場なら何ができるかを学ぶことができた。虐待となる前に防ごうという意識を共

(2) 次年度に向けた課題（現状の懸案事項や新たに対応すべき課題等を簡条書きで簡潔に記入）

・多職種連携は、継続して取り組むことにより、関係性が深まる。
・虐待の気づき研修は毎年行うべき。虐待の一手手前で関われるように、サービス事業所の多くの職員に受けていただきたい。
・事業所の職員（現場の職員）が出席しやすい工夫が必要である。（時間帯など）

【ステップアップ取組の評価】

部会	取組み	目標	成果・課題
1. 家族支援部会	家族介護者交流会	家族ニーズの把握⇒支援講座、拡大交流会への展開	◆成果：自主企画のモデル事業という形で実施し、無事に開催することができ、内容については意図通りで満足度の高いアンケート結果が得られた。 ◆課題：ニーズが把握できたのは、認知症家族介護者のごく一部であり必ずしもニーズをとらえているとはいえない。
2. 市民啓発部会	認知症サポーター養成講座	アンケート実施等によるフォローアップニーズや参加者の把握、名簿作成など、今後の展開検討のためのデータ収集	◆成果：メイト連絡会を開催し、認知症サポーター養成講座の推進のための第1歩を踏み出せた。 ◆課題：定期開催、メイト連絡会と推進会議・包括連絡会との情報共有
3. 多職種連携推進部会	多職種連携推進研修	介護事業所、医師、薬剤師、ケアマネ、民生委員等地域の関係者による顔合わせ・話し合いの機会の創出	◆成果：ケアマネと民生委員と市役所5課がそれぞれの役割を理解することができた。あまりつながりの無かったところと、相談しやすい関係ができた。サービス事業所とケアマネと包括のつながりが深まった。 ◆課題：継続実施、他事業との日程調整

【資料編】

(1) 日野市の虐待受付状況

平成 18 年度に作成した「日野市高齢者虐待対応・防止マニュアル」に基づき、養護者による虐待として地域包括支援センターが受け付けた虐待件数は以下の通りとなっており、平成 26 年度では 26 件発生しています。また、養介護施設従事者等による虐待は、平成 26 年度では 2 件発生しています。

養護者による虐待(単位：件・人)

相談・通報受理件数 (受理件数の内、夫婦件数)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
虐待認定件数		17 (1)	24 (1)	21 (4)	35 (3)	24 (2)	30 (1)	19 (1)	40 (1)
虐待の種別・類型 (重複有)	身体的虐待	13	16	16	24	18	19	10	17
	介護・世話の放棄、放任	3	7	1	2	7	6	5	4
	心理的虐待	6	14	9	20	15	8	3	11
	性的虐待								
	経済的虐待	3	9	7	8	7	6	7	7
	セルフネグレクト								
被虐待者性別	男 性	6	1	7	8	6	8	2	4
	女 性	12	24	18	30	20	23	18	22
	合 計	18	25	25	38	26	31	20	26
被虐待者の年齢	64歳以下			1	1	1			1
	65～69歳	3	3	2	5	3	1		
	70～74歳		7	6	3	5	4	5	3
	75～79歳	7	1	6	12	4	4	5	7
	80～84歳	4	7	5	10	6	12	8	5
	85～89歳	2	4	4	5	4	4	1	6
	90歳以上	2	3	1	2	3	6	1	4
	合 計	18	25	25	38	26	31	20	26
被虐待者から見た 虐待者の続柄 (重複有)	夫	3	5	4	11	7	5	6	5
	妻	3	1	1	1	3	4		2
	息子	6	8	11	14	7	13	9	10
	娘	4	7	4	9	4	7	3	4
	息子の配偶者(嫁)	2				1		1	
	娘の配偶者(婿 内縁を含む)	1		1	1				
	兄弟姉妹				1				1
	孫		3		1	2	1		2
	不明(特定できず)				1				2

施設従事者による虐待(単位：件・人)

相談・通報受理件数		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
虐待認定件数								3	3
業種別	居宅介護支援事業所								
	訪問介護							1	
	通所介護								
	特別養護老人ホーム							1	1
	ショートステイ								
	介護老人保険施設								1
	小規模多機能							1	
	グループホーム								
	特定施設								
	身体的虐待							1	1
虐待の種別・類型 (重複有)	介護・世話の放棄、放任								
	心理的虐待								2
	性的虐待								
	経済的虐待							2	

(2) 日野市の徘徊対応状況

「認知症高齢者SOSネットワークマニュアル」に基づき、家族等から地域包括支援センターに連絡があった件数は以下の通りとなっており、徘徊者の実数は昨年度より減少しました（平成21年度より集計）。家族等から警察に直接通報され、地域包括支援センターに連絡がなかった場合もあるため、実際には集計よりもさらに多くの徘徊が発生していると推測されます。また、SOS ネットワーク事前登録者数、メール配信登録者数ともに年々増加しており、平成27年3月31日時点で、それぞれ237人、6,836件となっています。

1) 平成21年度～平成26年度

徘徊対応状況(H21～H26)

(単位：人)

徘徊対応状況(H21～H26)

			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
徘徊者数(実人数)	人数		21	26	35	42	30	24
	性別	男性	10	14	16	19	12	15
		女性	11	12	19	23	18	9
	年齢	～69歳	0	2	6	1	1	3
		70～74歳	4	2	4	3	4	1
		75～79歳	5	9	10	19	10	10
		80～84歳	7	5	13	11	6	5
		85歳以上	5	8	2	8	9	5
延べ徘徊発生数	発生件数		31	31	52	49	41	32
	防災無線利用		2	5	1	3	0	1
	警察へ通報		13	20	38	30	34	26
	Eメール利用				9	9	16	15
発見数			31	31	52	49	41	32
	1時間以内		13	7	19	14	4	8
	3時間以内		7	7	13	14	9	3
	6時間以内		0	3	8	5	7	7
	12時間以内		4	4	3	3	6	6
	24時間以内		2	2	3	6	10	2
	24時間以上		0	3	1	3	2	1
	不明		5	5	5	4	3	5
発見できていない数			0	0	0	0	0	0

【参考】

(上段単位：人)

SOSネットワーク事前登録者数及びメール配信登録者数(推計)						
	21年度末	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
事前登録者数	42	81	129	167	195	237
メール配信登録者数 (推計)		2,120件	5,850件	5,910件	5,853件	6,836件

2) 平成 26 年度（地域包括支援センター別）

（単位：人）

		もぐさ	あさかわ	すてっぷ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいき タウン	すずらん	かわきた	計
徘徊者数(実人数)		1	5	2	5	4	2	3	1	1	24
性 別	男性		4	2	3	2	1	1	1	1	15
	女性	1	1		2	2	1	2			9
年 齢	～69歳		1		1				1		3
	70～74歳				1						1
	75～79歳		2	1	1	3	2			1	10
	80～84歳	1	1			1		2			5
	85歳以上		1	1	2			1			5
延べ徘徊発生数		1	11	2	5	4	2	4	2	1	32
防災無線利用									1		1
警察へ通報			10	2	4	4	1	2	2	1	26
Eメール利用			5	2	1	3		1	2	1	15
発見数		1	11	2	5	4	2	4	2	1	32
1時間以内			5		3						8
3時間以内		1	1			1					3
6時間以内				1	2	2	1	1			7
12時間以内			2	1		1			1	1	6
24時間以内			2								2
24時間以上									1		1
不明			1				1	3			5
発見できていない数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 平成 26 年度までの取組み

【認知症高齢者支援】

① 認知症家族介護者交流会 (専門相談会)	【内容】 認知症の人とその家族の支援を目的とした交流会								
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
	5 回	6 回	交流会 16 回/ 専門講座 2 回	18 回	20 回	20 回	20 回	21 回	
② 認知症サポーターの養成講座	【内容】 市民や企業・職域団体、高校生等を対象とした認知症サポーター養成講座（平成 25 年度までは各圏域開催。平成 26 年度より、各圏域＋公募型）								
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	4 回	22 回	24 回	31 回	23 回	45 回	46 回	31 回	36 回 +公募 1 回
③ 認知症サポーターステップアップ講座	【内容】 認知症サポーターのレベルアップを図る講座 【実績】 H20 1 回開催								
④ 高齢者 SOS ネットワーク構築 に向けた取組み	【内容】 徘徊により行方不明となった高齢者の捜索・保護の体制づくり								
	H20		H21			H24		H26	
	マニュアル 案の作成	i SOS ネットワーク会議 (計 7 回開催) ii 「徘徊高齢者捜索マニュアル」作成 iii E メールの一斉配信システムの整備（※徘徊発生時の情報を市民に広く 周知する手段）			SOS ネットワーク 見直し検討 →周知啓発		SOS ネットワーク 普及啓発		
⑤ 認知症予防啓発 パンフレット	【内容】 H21 認知症の予防啓発を目的としたパンフレットの作成及び 医療機関等での配布 H26 「知って安心認知症」の作成・配布								
⑥ 認知症地域資源 マップ作成	【内容】 認知症高齢者や介護者の介護負担軽減等に資する地域資源マップの作成（※H25 は地域包括支援センター・市が活用するデータベース作成）								
	H22		H23		H24		H25		H26
	マップ原案作 成のための検 討会 (3 回)	マップ作成 のための検 討会開催 (4 回)		マップ作成 のための検 討会開催 (2 回)		データベ ース作成のため の検討会開催 (2 回)		DB 活用状況 の検証 (部会) (1 回)	

⑦認知症家族介護者支援講座の開催	【内容】認知症高齢者を介護する家族に対し、専門知識の習得や専門家への相談ができる機会を設けるための講座				
	H22	H23	H24	H25	H26
	2回催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催
⑧認知症啓発講座の開催	【内容】市民を対象にした、認知症の理解を広めるための講座				
	H22	H23	H24	H25	H26
	1回 (→東日本大震災の影響により中止)	2回開催	2回開催	1回開催	1回開催
⑨介護サービス従事者研修 →H26 より多職種連携研修	【内容】(H22～H25) 介護サービス従事者を対象とした、認知症および虐待防止の理解の促進および対応の向上を目的とした研修 (H26～) 認知症高齢者支援や虐待防止における、地域の顔の見える関係づくりを目的とした研修				
	H22	H23	H24	H25	H26
	2回開催	4回開催	2回開催	2回開催	3回開催
⑩関係機関連絡会の開催 →H25 で終了	【内容】困難ケースや虐待ケースに対し、スムーズな対応が図れるよう、関係機関との連携の促進を図る				
	H22	H23	H24	H25	
	2回開催	3回開催	2回開催	2回開催	
⑪認知症高齢者支援・高齢者虐待防止推進会議の開催	【内容】地域包括支援センターと市による認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業の企画・推進のための会議				
	H22	H23	H24	H25	H26
	6回開催	8回開催	3回開催	3回開催	3回開催

【高齢者虐待防止対策】

①高齢者虐待防止にかかわる検討・対策会議	【内容】虐待対応のネットワーク構築の検討								
	H19		H20		H21				
	高齢者虐待防止 対策会議 (5 回開催)		高齢者虐待防止 検討会議・事例検討会 (4 回開催)		高齢者虐待防止 検討会議 (3 回開催)				
②高齢者虐待防止勉強会	【内容】関係機関職員を対象とした勉強会 H19 年1 回開催 H26 年1 回								
③関係者研修	【内容】関係機関職員を対象とした家族支援及び人材育成								
	H19		H20		H21		H26		
	4 回開催		3 回開催		1 回開催		2 回開催		
④ケアプラン指導研修・専門相談会	【内容】ケアマネージャーと管理者を対象とした研修・専門相談会								
	H19			H20					
	ケアプラン指導研修 (3 回開催)			ケアプラン専門相談会 (4 回開催)					
⑤虐待防止啓発講演会	【内容】一般市民、民生委員等を対象とした講演会								
	H19		H20		H23				
	一般市民・民生委員 を対象に開催 (1 回)		一般市民を対象に開 催 (1 回)		民生委員を対象に開 催 (1 回)				
⑥高齢者虐待に関する啓発	【内容】 H19 認知症及び高齢者虐待に関する啓発パンフレット作成 H25 虐待防止啓発のちらし作成 (自治会回覧等) H26 虐待防止啓発 (サポーター養成講座等における周知等)								
⑦日野市高齢者虐待対応・防止マニュアル	【内容】対応の流れや帳票類を定めたマニュアルの作成 H18：作成 H19：改訂 H20：改訂 H21：改訂 H24：改定に向けた見直しポイントの整理 H25：マニュアルの改訂 H26：マニュアルの改訂								

(4) 年間スケジュール

取組み		内容	H26																								H27																					
			4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3												
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下													
包括連絡会				報告														報告																														
1. 事業の推進	(1) 認知症高齢者支援 (高齢者虐待防止) 推進会議	年3回、各回2時間程度			● 第1回	4月23日 9:30～12:00 場所：日野市役所 501会議室 【事業運営方針の決定】 1. 今年度の重点取り組みの 具体的な手法の検討 2. 各部会からの発表																										● 第2回	10月23日 9:30～11:30 場所：日野市役所 501会議室 【事業中間評価】 1. 中間報告 2. 認知症を知る月間について						2月27日（金）14:00～16:00 場所：日野市役所 501会議室 【事業最終評価】（仮） 1. 最終報告 2. 次年度の方向性						● 第3回			
2. 認知症高齢者 および家族介護者の 支援体制の整備	(1) 認知症家族介護者 支援講座	年2回、各回2時間程度																	● 第1回	9月20日 10:30～12:30 場所：市民の森 ふれあいホール 2階 コミュニティルーム1 【テーマ】 「認知症の人の食べる力を引き出す支援」 講師：平野浩彦氏（独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所社会科学系専門副部長）																												
	(2) 認知症家族介護者 交流会	4生活圏域×4回以上実施																																														
	(3) 認知症地域資源マップ (データベース)の活用	年1回、2時間程度																																														
	■家族支援部会	年9回程度																																														
3. 一般市民に対する 認知症・虐待防止等 の理解促進	(1) 認知症の理解促進 のための講座等	年1回、2時間程度																	● 第1回	9月13日 14:00～16:00 場所：七生公会堂 【テーマ】 「私たちの認知症」 ～認知症になっても自分らしく生きられる社会とは？～ 講師：グスタフ・ストランデル（株式会社舞浜倶楽部代表取締役社長）																												
	(2) 認知症サポーター 養成講座の開催	・9包括×3回以上実施 ・月間中1回 (一般募集)																																														
	(3) 虐待防止啓発	適宜検討																																														
	(4) SOSネットワークの充実	適宜検討																																														
	■市民啓発部会	年10回程度																																														
4. 関係機関の ネットワーク構築	(1) 多職種連携研修	年3回、各回2時間程度																																														
	(2) 虐待防止マニュアルを 活用した対応スキルアップ	適宜開催																																														
	■多職種連携推進部会	年9回程度																																														

(5) イベント等のちらし

① 認知症を知る月間

日野市

平成 26 年度 日野市認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業

認知症を知る月間

～広げよう！認知症を支える輪～

日野市では、市民の皆さんに認知症を身近に感じていただくため、「認知症を知る月間」を開催します。ふるってご参加ください！

9月13日（土）市民啓発講座

14:00～16:00 於：七生公会堂



私たちの認知症 ～認知症になっても自分らしく生きられる社会とは？～

グスタフ・ストランデル氏 (Gustav Strandell) (株) 舞浜倶楽部代表取締役

「認知症の人が自分らしく生きられる社会とは？」その理念や実現手法について、福祉先進国スウェーデンと日本を比較しながら、わかりやすい切り口でお話をさせていただきます。この機会に、認知症についての理解を深めませんか？（定員 300 名・申込順、無料）

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

9月17日（水）認知症サポーター養成講座

14:00～15:30 於：日野市役所 505 会議室

認知症の人への接し方などについて学びます。あなたも、サポーターになりませんか？

（定員 90 名・申込順、無料）



※受講者の方には、「オレンジリング」を差し上げます。

9月20日（土）認知症家族支援講座

10:30～12:30 於：市民の森 ふれあいホール

「認知症の人の食べる力を引き出す支援」

講師：平野 浩彦先生

（独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 社会科学系専門副部長）

（定員 90 名・申込順、無料）



講座後、続けて開催します！

家族交流カフェ

家族介護者同士で交流しよう！

12:30～14:30

おしゃべりを楽しみながら、交流しませんか？＊飲み物のみ用意します。昼食持込可、売店あり

（申込不要）



■9月18日（木）無料医療相談会～認知症やパーキンソン症状のある方へ～

午後 於：多摩平の森ふれあい館

神経内科の医師による個別相談会を開催します。最近、物忘れや転びやすくなったことが気になるという方、ぜひご相談ください。（定員 20 名・申込順、無料）

■9月2日（火）～26日（金）：日野市役所 1 階でパネル展示

■9月2日（火）～30日（火）：図書館で関連書籍の紹介（中央図書館、高幡図書館、平山図書館）

期間中、図書館の展示コーナーにて認知症に関する書籍や雑誌をまとめてご紹介いたします。

※対象図書館：中央図書館、高幡図書館、平山図書館

【申込み・問合せ先については裏面をご覧ください】

FAX送信：
042-583-4198
日野市役所
高齢福祉課在宅サービス係宛

日野市「認知症を知る月間～広げよう！認知症を支える輪～」 申込書

※参加申し込みを希望される方の氏名・電話番号を記入し、参加講座に「○」をつけてください。

9月3日（水）から申込受付開始

フリガナ 氏名 (電話番号) *お電話番号を忘れず に記入して下さい。	9/13（土） 市民啓発講座 14:00-16:00 「私たちの認知症」 【於：七生公会堂】	9/17（水） 認知症サポーター 養成講座 14:00-15:30 【於：日野市役所 505 会議室】	9/20（土） 認知症家族支援講座 10:30-12:30 「認知症の人の食べる力 を引き出す支援」 【於：市民の森 ふれあいホール】
（記入例） ヒノ ハナコ 日野 花子 (042-585-1111)	○	○	

■9月18日（木）午後 無料医療相談会～認知症やパーキンソン症状のある方へ～
参加を希望される方は、以下までお電話ください。
9月3日（水）から申込受付開始

地域包括支援センターあいりん 電話：042-586-9141

※駐車場には限りがございます。なるべく、公共交通機関でお越しください。
七生公会堂の駐車場の利用は車いす等の方に限らせていただきます。
ふれあいホール駐車場は有料です。



【申込み・問合せ】 参加を希望される方は、電話またはFAXでお申込みください。
日野市役所 高齢福祉課在宅サービス係 電話：042-585-1111（内線 2421～2423）
FAX：042-583-4198

（主催）日野市
（協力）公益財団法人精神・神経科学振興財団、ひのケアマネ協議会、市内グループホーム、市内小規模多機能ホーム、
市内認知症対応型デイサービス事業所、特定非営利活動法人 愛隣舎、日野市社会福祉協議会
（後援）日野市医師会、日野市歯科医会

② 第2回認知症家族介護者支援講座（バスツアー）

平成26年度 日野市認知症高齢者支援事業

認知症家族介護者支援講座

認知症家族介護者交流会特別企画

癒しのマッサージ講習&お食事会

2015年2月4日（水）

10:00~14:30

開催場所 フォレスト・イン昭和館

認知症の介護をする方同士
仲間をつくりませんか？

イベント内容

- マッサージ講習会
- ホテルバイキング

この度、介護者の皆様のために、心も身体もリフレッシュできるバスツアーを企画しました！

マッサージ講習会&美味しいホテルバイキングで心と体もリラックス！

お食事を堪能しながら介護の悩みを話したり、情報交換したり、家族介護者同士で語らいませんか？

初めて家族交流会に参加される家族介護者の方も、ぜひお気軽にご参加ください♪

*このイベントは、3か月に一度地域包括支援センターが開催している「認知症家族介護者交流会」の特別企画として、ご家族と一緒に企画したものです。

当日のスケジュール

集合：10:00 七生福祉センター（七生公会堂）

マッサージ講習会（10:10~11:10）

あんまマッサージ指圧師：小林雅尚
（地域包括支援センターもぐさ職員）

※バスにて

出発：11:20→ →到着：11:50

フォレスト・イン昭和館（昭島市）

ホテルバイキング

（12:00~13:30 レストランセントロ）

ホテル内、お庭等散策（13:30~14:00）

※バスにて

出発：14:00→ →到着・解散：14:30

七生福祉センター



初めてご参加の
認知症家族介護者の方
大歓迎！

当日は、地域包括支援センター
もぐさ及びあかさわ、日野市
高齢福祉課の職員が同行します！



お申込みは裏面へ

定員・・・・・・20名（先着順）定員に達し次第、受付を終了いたしますので、ご了承下さい。

申込み〆切日・・・・2015年1月28日（水）

参加費（昼食代）・・・3,080円（60歳以上の方はシニア料金：2,750円）

対象者：・・・・・・認知症の家族を介護している方

主催：日野市役所 高齢福祉課

写真出典：「フォレスト・イン昭和館」公式ウェブサイト

2015年1月28日(水)お申込み〆切！

ご参加を希望される方は、**お電話**でお申込みください。

- ・認知症の方を介護しているご家族が対象です。
- ・ご自身で歩行できる方に限らせていただきます。

お申込み先

地域包括支援センター もぐさ
電 話：042-599-0536

お電話にて①お名前、②ご住所、③電話番号 をお伝え下さい。

*定員に達し次第、受付を終了いたしますので、ご了承下さい。



集合場所・会場について

集合場所

七生福祉センター（七生公会堂）

解散場所

所在地：東京都日野市三沢3丁目50-1



お食事

ホテル「フォレスト・イン昭和館」

所在地：東京都昭島市「昭和の森」内

フロアマップ

ホテルバイキングの会場は、レストラン「セントロ」となります。



お庭等散策

お食事の後、フォレスト・イン昭和館のお庭を散策します。



写真出典：「フォレスト・イン昭和館」公式ウェブサイト

地図出典：「日野市企業公社」公式ウェブサイト

(6) 認知症サポーター養成講座 開催状況詳細

	実施日	対象	対象者詳細	受講者数	メイト	
					包括名	担当者
1	H26.6.21	住民	西宮下自治会	25	かわきた	鍵本
2	H26.7.16	住民	地域住民	49	もぐさ	小堀、鈴木
3	H26.7.17	企業・ 職域団体	百草ふくしの里 あすなろ	19	あさかわ	西村、堀田
4	H26.7.22	企業・ 職域団体	宅配クック1, 2, 3	3	すてっぷ	藤井、木村
5	H26.7.30	企業・ 職域団体	特別養護老人ホーム浅川苑	17	あさかわ	竹内、堀田
6	H26.8.20	行政	日野市役所職員	26	すずらん、 せせらぎ	相馬、唐沢
7	H26.8.22	行政	日野市役所職員	19	かわきた	菅原、小林
8	H26.8.29	住民	ニチイホーム高幡の職員と近隣住民	15	あさかわ	西村、堀田
9	H26.9.8	住民	立正佼成会	219	いきいき、 すてっぷ	川田、落合
10	H26.9.12	住民	多摩平の森自治会住民	23	あいりん	高瀬
11	H26.9.17	住民	一般市民(公募型)	77	いきいき、 すずらん	中山、相馬
12	H26.9.24	住民	見守支援ネットワーク地区連絡会	11	すずらん	相馬、廣川
13	H26.10.8	企業・ 職域団体	イオン多摩平の森従業員	267	すてっぷ	落合、木村、 樋口、輪田
14	H26.10.22	企業・ 職域団体	訪問介護武蔵	6	すてっぷ	木村
15	H26.10.23	企業・ 職域団体	訪問介護武蔵	4	すてっぷ	藤井
16	H26.10.24	企業・ 職域団体	訪問介護武蔵	3	すてっぷ	佐藤
17	H26.10.28	企業・ 職域団体	訪問介護武蔵	3	すてっぷ	落合
18	H26.11.1	住民	マザアス日野 介護の日	9	多摩川苑	磯野、川田
19	H26.11.4	住民	地域リビング ゆざわここからネット	26	もぐさ	辻澤、小堀
20	H26.11.4	学校	日野台高校2年1組、 明星大学実習生	40	あいりん	樋口、輪田、 高瀬

	実施日	対象	対象者詳細	受講者数	メイト	
					包括名	担当者
21	H26.11.4	学校	日野台高校2年8組	36	あいりん	樋口、輪田、高瀬
22	H26.11.4	企業・職域団体	宅配クック1, 2, 3	3	すてっぷ	佐藤
23	H26.11.18	企業・職域団体	配食ニコニコキッチン	4	すずらん	相馬
24	H26.11.19	企業・職域団体	ニック株式会社多摩営業所	7	すてっぷ	藤井、佐藤
25	H26.11.22	企業・職域団体	特定非営利活動法人 はっぴーらいふ	16	すてっぷ	落合
26	H27.1.9	企業・職域団体	武内歯科医院	8	あさかわ	竹内、堀田
27	H27.1.16	学校	明星大学人文学部福祉実践科	46	すずらん、もぐさ	相馬、小林雅尚
28	H27.1.21	住民	宮(周辺)婦人会	21	多摩川苑	磯野、川田
29	H27.1.24	企業・職域団体	福祉カフェリハビリサロン職員	24	せせらぎ	一ノ瀬、唐沢、飯沼
30	H27.1.26	住民	日野市民生委員	31	せせらぎ、多摩川苑	片伯部、浅見
31	H27.2.5	学校	日野市立三沢中学校1年生	238	あさかわ	堀田、竹内、西村
32	H27.2.7	住民	第一豊田荘 自治会	31	すてっぷ	落合
33	H27.2.17	学校	日野市立第4中学校1年生	229	すてっぷ、かわきた	落合、筒井、小林、鍵本
34	H27.3.2	企業・職域団体	南観光交通	2	もぐさ	小林、辻澤
35	H27.3.12	企業・職域団体	コニカミノルタ株式会社	15	いきいきタウン	川田、中山
36	H27.3.26	企業・職域団体	リルセーヌ日野旭ヶ丘スタッフ・地域住民	6	かわきた	菅原、小林

【キャラバンメイト名簿】

平成 27 年 3 月現在、日野市におけるキャラバンメイト（認知症サポーター養成講座の講師役）は、34 名となっています。

	受講年度	所属機関	氏 名
1	18	地域包括支援センターすてっぷ	落合 恵子
2	18	地域包括支援センターせせらぎ	片伯部 純子
3	18	地域包括支援センターいきいきタウン	川田 利子
4	19	地域包括支援センターもぐさ	鈴木 織子
5	19	地域包括支援センターあいりん	高瀬 和枝
6	19	リハビリデイきりん	多和田 圭祐
7	20	地域包括支援センターすずらん	廣川 理恵子
8	20	地域包括支援センターいきいきタウン	中山 正夫
9	21	地域包括支援センターあさかわ	堀田 志保子
10	21	地域包括支援センターかわきた	菅原 拓
11	21	地域包括支援センターかわきた	小林 尚子
12	21	地域包括支援センターせせらぎ	飯沼 一将
13	21	地域包括支援センターせせらぎ	唐沢 淳子
14	22	地域包括支援センターもぐさ	小堀 千枝子
15	22	地域包括支援センターすずらん	相馬 みゆき
16	23	地域包括支援センターすてっぷ	木村 名津季
17	23	地域包括支援センターあさかわ	竹内 淳子
18	23	地域包括支援センターもぐさ	辻澤 美由紀
19	23	地域包括支援センターすてっぷ	佐藤 淳子
20	23	居宅介護支援事業所ふれあい	市川 るみ子
21	24	地域包括支援センターすずらん	良岡 千春
22	24	地域包括支援センター多摩川苑	浅見 ゆかり
23	24	地域包括支援センターかわきた	鍵本 博子
24	24	地域包括支援センターあいりん	輪田 博美
25	24	地域包括支援センターあいりん	樋口 ゆかり
26	25	地域包括支援センター多摩川苑	磯野 悠子
27	25	地域包括支援センターあさかわ	西村 サオリ
28	25	地域包括支援センター多摩川苑	川田 麻姫
29	25	地域包括支援センターすてっぷ	藤井 美樹子
30	26	地域包括支援センターあいりん	鳥飼 梓
31	26	地域包括支援センターもぐさ	小林 雅尚
32	26	地域包括支援センターせせらぎ	一ノ瀬 剛
33	26	地域包括支援センター多摩川苑	坂本 光徳
34	26	地域包括支援センターすてっぷ	筒井 順子

平成 26 年度認知症高齢者支援（高齢者虐待防止対策）事業
実施報告書

発行年月 平成 27（2015）年 3 月

企 画 日野市健康福祉部高齢福祉課
〒191-8686 東京都日野市神明一丁目 12 番地の 1
電話 042-585-1111（代表）

企画協力 株式会社 地域計画連合
〒170-0004 東京都豊島区北大塚一丁目 19 番地の 12
電話 03-5974-2021